君は淫らな僕の女王
原作 岡本倫
作画 横槍メンゴ
You are obscene my queen.
YJ
ヤングジャンプ
YJC
君は淫らな僕の女王
原作 岡本倫
作画 横槍メンゴ
集英社

9784088795256

ISBN978-4-08-879525-6

C9979 ¥562E

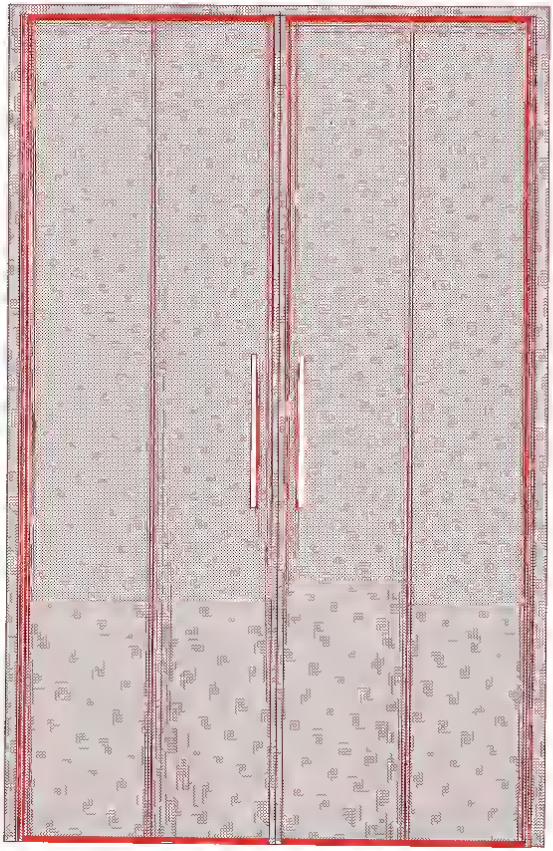
定価 本体562円＋税

1929979005627

雑誌 44274－25

Cover Design: Tadashi Hisamochi (hive&co., ltd.)

君は淫らな僕の女王



原作 岡本倫 × 作画 横槍メンゴ

YJ ヤンジャン YJC

君は淫らな僕の女王

原作 岡本倫
作画 横槍メンゴ

集英社

君は淫らな僕の女王
原作 岡本倫×作画 横槍メンゴ

君は淫らな僕の女王

contents

君は淫らな僕の女王　第1話　003
君は淫らな僕の女王　第2話　046
君は淫らな僕の女王　第3話　084
君は淫らな僕の女王　第4話　124
君は淫らな僕の女王　最終話　163
君は淫らな僕の女王　番外編　206

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには、いっさい関係ありません。

君は淫らな僕の女王
第1話

すぐそばにいる
昴を目にする度…

ぼくは
彼女との距離を
思い知る

おはようございます
おはよう
昴はぼくの幼なじみだ
子供の頃は毎日暗くなるまで一緒に遊んでいた

でも…彼女はお嬢様だった
それも超が付くほどの

昴の家は
元をたどると
かつて華族だった
らしい
彼女の
可憐な佇まいは
ただそこにいるだけで
教室全体の空気を
変えてしまう
昴がこの学校で
一番の美人だという事実に
異論を唱える人はいない
たとえ
この世で一番だと
言われても
疑わないだろう
彼女は
微塵の猥褻さも
感じさせない…
まるで
天界に住む
生き物のようにさえ
思えた
だから
当然すごく
モテる
でも
家柄がいいはずの
この学校の男子も
昴には誰ひとり
声をかけることは
出来なかった
……
でも彼女が
可憐なのは…
あ
昴…
ハンカチ
落としたぞ

ちょっと…
なれなれしく名前で呼ばないでくれる？
気持ち悪い
ぼく以外の人に対して
だけだ
子供の頃昴は男勝りな女だった
いつも泥だらけになって一緒に遊んだ
本当に男みたいで…
男女（おとこおんな）って呼んでバカにしてたくらいだ
でも小学校に上がると同時に昴とは会えなくなった
彼女が全寮制のお金持ち学校へ入ってしまったからだ
昴が通う学校は私立で寄付金も一〇一〇〇万レベルで払わなければ入れない名門学校だった
入学試験には自宅の訪問まで含まれている

その頃
ぼくは子供だったから
彼女とぼくとの間にある
「格差」を
理解できなかった
だから ぼくは
どうしても昴と
同じ学校に
行きたかったけど…
当然
ぼくの家じゃ
行くことは
出来ない
でも
彼女の学校は
高等部の試験で
年に数人だけ…
成績の優秀な生徒を
特待生として
授業料免除で
受け入れていた
だから ぼくは
昴に会いたさに
死にものぐるいで
勉強した
そして ようやく
この春から
昴と一緒の高校に
通えることになったんだ
なのに
こんなに苦労して
同じ学校に入った
ぼくに昴は冷たい
昴と同じ場所で
学生生活を
送れるんだと
思っていたけど
もう1学期も
終わろうというのに
まともに会話をした
ことがなかった
むしろ
完全に
避けられていると
言ってもいい
幼なじみだという
事実さえ
クラスでは
伏せられてる
子供の頃は一緒に
お風呂に入ったり…
立ちションまで
一緒にしたことが
あるのに

彼女はそういう
幼き日の行いを
忌むべき思い出として
それを知るぼくを
遠ざけておきたい
のだろう

彼女は
あんなに綺麗に
なったのに…

ぼくは
相変わらず貧乏で
身長もあまり
伸びなかった

幼なじみの
はずなのに……

ぼくは
その他大勢の
連中よりも
彼女から遠い

ねぇねぇ
知ってる？
昨日
ネットで見た
恋が叶う
おまじない

え？
なになに？

「裏の神様
裏の神様
言うとおりに
します」
って言ったあとに
お願い事をすると
叶うんだって

その代わり
裏の神様に
何かを取られ
ちゃうらしいよ

えぇ
ホント？
くだらなーい

ホントに
くだらない

この学校は
全寮制だ
田舎の山奥に
あるから街へは
週末にしか出られない

道路を挟んで
すぐそこに見える
女子寮
昴は あの中で
暮らしている
昼も夜も
昴は近くて遠い

ぼくは…
ゴロン…
ずっと昴が好きだった
子供の頃からずっと…
今まで…昴以外の女の子を好きになったことがなかった…

でも彼女は遠い存在になってしまった…
どうすれば…昴との距離を縮められるんだろう
はぁ…

そのクローゼットのドアが異次元に繋がってて…
中から昴が出てきたりしてくんないかなぁ…
……

裏の神様
裏の神様…
言うとおりにします
そのドアを昴の部屋に繋げてください
アホくさ
ギシッ…

ガチャ
ふう…

いっ…

いやあああああ!!!
ちょっとあんた!?なんで勝手に私の部屋にいるの!?
信じられない!!
えっ!?ちょっ…
ここはぼくの部屋だ!!
何言ってるの!?私の部屋よ!!
あなた頭おかしいんじゃない!?女子寮に侵入するなんて!!
違うって!!
バカだとは思ってたけどそんな奴だとは思わなかった!!
よく見ろ!!
ここはぼくの部屋だ!!
……

えっ？
私の部屋じゃない…
昴こそなんで全裸でぼくの部屋のクローゼットに隠れてたんだ？
そっ…そんなことするわけないでしょ？
ここはうちのキッチンよ!!
……
はあ？
少しいい？
ちょっ…
ホントにキッチンだ…
なんなのこれ…

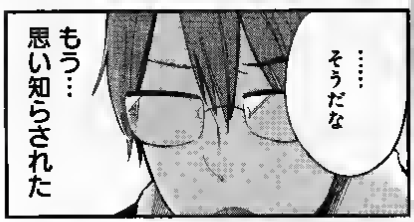
ぼくの部屋と
昴の部屋がくっついちまった…
まさかほんとにおまじないが効くなんて!!
裏の神様すごい!!
ちょっと!
それじゃ私の部屋はどこ行っちゃったのよ…
それをいうならぼくのクローゼットの中身だって…
そんなものはどうだっていい!!
机も本も服も何もかも…
みんなどこに行っちゃったの?
……

はい
ぼくのパンツとTシャツ
はぁ!?
……じゃあいいけど別に
昂がノーパンのままでいいなら
冗談じゃないわ!
なんで私が男ものパンツ履かなきゃいけないのよ
それもあんたのなんか!!
……
こんな屈辱…
あのパンツはぼくの一生の宝物にしよう
天界の生き物だと思っていた昂がぼくの部屋にいるだなんて…
裏の神様ありがとう!!!
私他の子の部屋に泊めてもらうわ

えっ!?
それは
ダメだよ!!
はぁ?
あの…ほら
自分の部屋以外に
泊まったことが
ばれたら
退寮になるぞ
そしたら
泊めてくれた
子にも迷惑
かけるし
……
じゃあ
仕方ないわ
今日はこの
部屋に泊めて
……ま
こんな
状況だから
仕方ないけど
やった!!
布団は1つしか
ないから当然…
あんたは床ね
何でだよ!?
当たり前
でしょ
私を床で
寝させる気?
一緒に寝るって
いう選択肢は
ないのかよ
私はね…

……
あなたが
大ッ嫌いなの
はぁ…
昴…
そういう
男っぽいとこ
全然変わって
ないな
見た目ばっかり
女っぽくなって
…
中身は昔と
全然変わってない
じゃないか
男女(おとこおんな)の
ままだ

やっぱり
他の子の部屋に
泊めてもらう
明日の朝
先生に事情を
説明するわ
部屋がくっつく
なんてあり得ない
話だけど
実際この部屋を
見てもらえば
納得してもらえる
でしょう

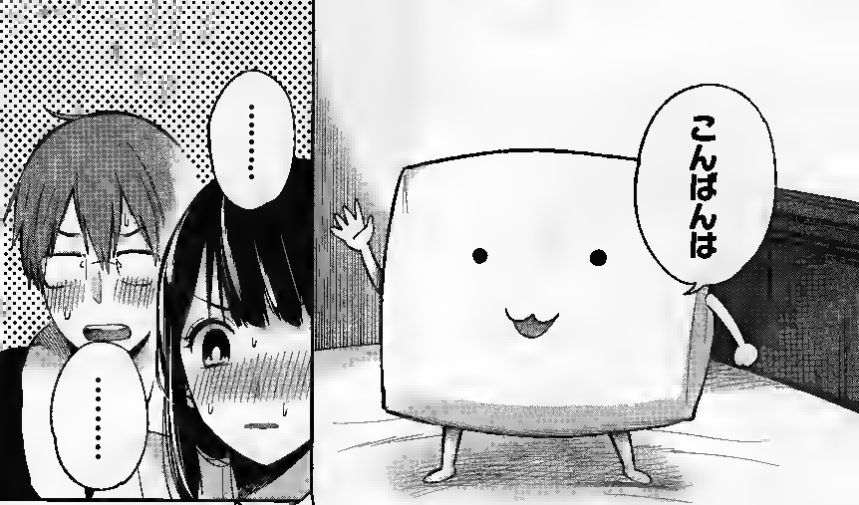

……
そうだな
もう…
思い知らされた

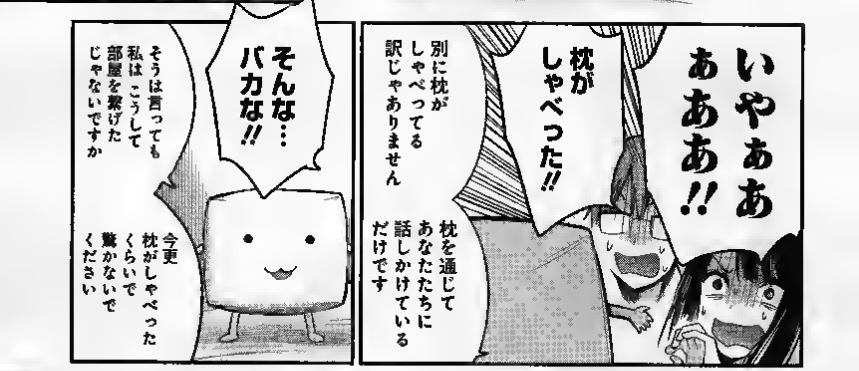
必死で勉強して
同じ学校に
通っても
神様に部屋を
繋げて
もらっても…
体の距離だけ
いくら縮めたって…
何の意味も
ないんだ

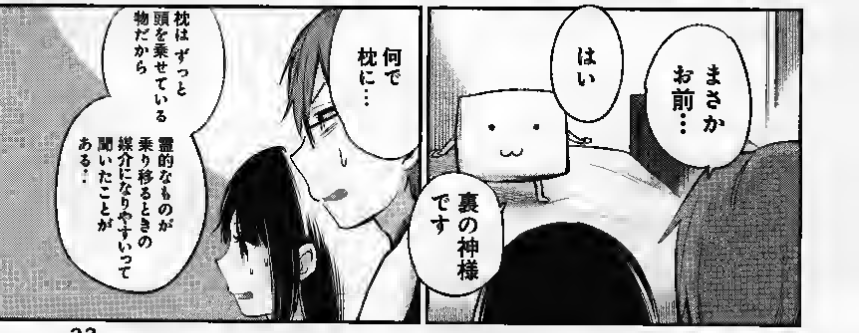
あの それじゃ
ちょっと
いいですか?
えっ?

だ…
誰か
いるのか?
そっちじゃなくて
こっちです

あっ!?


こんばんは
……
……


いやぁあああ!!
枕がしゃべった!!
別に枕がしゃべってる訳じゃありません
枕を通じてあなたたちに話しかけているだけです
そんな…バカな!!
そうは言っても私はこうして部屋を乗っ取ったじゃないですか
今更枕がしゃべったくらいで驚かないでください


まさかお前…
はい
裏の神様です
何で枕に…
枕はずっと頭を乗せている物だから
霊的なものが乗り移るときの媒介になりやすいって聞いたことがある…

あなた…
言いましたよね
何でも
言うとおりに
するから
願いを叶えて
欲しいと
だから報酬を
いただきに
参りました
……
…寿命でも
取ろうって
のか？
そんなものは
いりません
私が
欲しいのは
自制心
です
……
自制心？
そう
自制心は
人間が人間で
あるために
とても重要な
心の動きです
動物には
自制心が
ありませんから
動物と
人間の境界
それが
私たちにとって
とても重要
なのです
神と人間との
境界でも
ありますから

だから私は
契約者である
あなたから自制心を
いただきます
……
は？
ただ自制心を
無くしっぱなしに
すると人間はすぐに
死んでしまうので
自制心を
いただくのは
1日に半時だけ
です

枕
違うよ
お前を
呼んだのは
ぼくだ
知ってます
あなたは
従・契約者です
私から
お伝えしたい
ことは以上です
コテン
おい!!
だから
昴は関係ないって
言ってんだろ!!
ったく…

半時って…
1時間ってこと？
自制心をもらう
ったって…
どういうことだ？
抽象的だし
中途半端
だなぁ…
あれか？
成分献血みたいな
もんか？
……

ちょっ…
どうしたんだよ
急に…？
何でも
ない!!
ポロポロ
何でも
ないこと…
うるさい!!
なんでもない!!
ほっといて!!
うっ…
ぐっ…
うあぁあ
あぁあっ!!
うぐっ!!
……
ひょっとして…
本当に自制心を
取られたのか？
ひっく
ひっく
何よ変わって
ないって…
は？

なにが男みたいよ？
私だって…女の子らしくしようと…
一生懸命がんばったんだよ…
えっ？
髪も長く伸ばしたしお花も習ったし言葉遣いも気をつけて…ひっく
私…ずっとがんばったんだよ…
あんたが…
……
もっと女の子らしい子が好きだって言うから…
ぼく…
そんなこと言ったっけ？
言った!!

私のことは…
男女(おとこおんな)って
バカにしたくせに…
それから
あんたに
会えなくなったから…
ずっと…
悔しくて…
他のロングヘアーの
女の子を見て…
かわいいなって
…
全然
覚えてない
でも…
6歳児のぼくが
男女って言った
ことを真に受けて
ずっと女の子
らしくしようと
していたのか?
んなバカな!!
だったら なんで
いつもぼくにだけ
冷たかったんだよ
ぼくのために
女の子っぽく
したんだったら
おかしいだろ
だって…
ずっと…
あんたの
ために…
女の子っぽく
しようと
思ってたのに…

あんたの前では…
女の子っぽく装ってる自分を見せるのが恥ずかしかったの…
そんなところ…ひっく
見られたくなかった…
本当はぼくに近いからこその態度だったんだ…
だからお願い…
……
ぼくが感じていた姉の態度は…

セックスして
え？

な…
なんだよ
急に!?
私ね…
一人になると
いつも…
あなたのことを
考えてオナニー
ばかりしてたの…

今も…
あなたのパンツを
はいてるから…
すごく
興奮して…
見て…
こんなに
ぐしょぐしょに
なってる…
学校で
あなたのこと
見る度に…
いつもパンツを
ベトベトに
していたの…
ちょっ…

ホントに昴の自制心が0(ゼロ)になった!!
お願い…
はっ
はっ
Hして…
Hしたい…

いや…
ちょっと待って……
何言ってるの私…
少しは自制心残ってるのか…
でもやっぱりダメ…
我慢出来ないから自分でスッキリする…
ズル…
えっ?

や…見ないで…
はっ
はっ
ああぁああああっ!?
うっ…
昴…おかしくなってる…!!
くぁ!!
うっ…
いやおかしくなってるのは間違いないんだけど…
でも自制心を失ってるだけであって…

学校ではあんなに…
清楚に振る舞ってるのに…
これが本当の昴…？
びくっ
びくんっ
うっ…
ああぁぁ…
見ないでよおぉ…
ぱっ
私…私ね…
いつもあなたに…めちゃくちゃにされるところを想像しながらオナニーしてるの
でも…今はやっぱりいや…
こんなすぐそばにあなたがいるのに…
ヌル
はっはっ
Hしたいよぉ!…
ビクビクッ
セックス…してよぉ…
ピクン
めちゃくちゃにされたいよぉ…
お願いだから……

昴の舌…
クチュ…
クチュ
これが…
昴のおっぱい…
あぁぁぁぁぁぁぁぁ…
あぁぁぁぁぁぁぁぁ…
ビクンッ
やわらかい…
ああああああ!!
やぁぁぁ…
うあぁぁぁぁ…!!
ビクッ
ひあっ
ブルブル
んはっ
ブル

入れて…
はっ
ビクン
ビクッ..
入れて…
はっ
はー♥
はー♥
はっ
ガク
ガク..
精子入れて欲しいよおぉ…
ハーッ
受精したいよおぉ…
ハーッ
昴にこんな顔されたら…
はっ
はっ
ぼくもう…
はっ
お願い…
!?
迷惑かけないから…
はっ
はっ

寝た!?
なんだよ
それ!?
ブレーカーが
落ちたみたいに…
えっ!?
……
……
残念
だけど…
ホッとした
ような…
はぁ…
ちょ…
ちょっと
落ち着こう…
仮に
この状況に乗じて
昴にエロいことを
したら…
昴の自制心が復活した時
今の記憶が残ってたら
もう昴との関係は
修復不可能だ
でも今のが
本心なら
怒られることは
ないんじゃ
ないか？
何もしないのも
恥をかかせることに
なるし…
だったら…

ちゅん
ちゅん
ん……
あ
しまった…!!
ぼくも寝てた…!!
昴…
……制服あったのか？
台所に脱ぎっぱなしだったから残ってた
私…学校先に行ってるから
えっ？
ああ…
この枕…ちょっと借りていい？
ん…
いいけど…

あなたも
遅刻しない
ようにね
バタン
それなら…
その方が
いいや
昨日…
自制心を
なくしてた
間のことは
覚えてない
のかな…

あぁあああぁあ
あああぁああ
あ――!!!
死にたい
死にたい
死にたい!!!
殺して!!
殺して!!
殺して!!
お願い!!
殺して
ください!!
なになに?
ふざけるな
お前!!
寿命の2・30年
やるから
私の自制心返せ!!
ボスッ
あぁあ
あああ!!
ボスッ
うわぁあああぁあ!!
死にたいよ――!!
あああああああ!!
……
やっぱり
覚えてたのか…

おはよー
おはよー

昴は…
まだ来てないのかな…

試してみたよ
昨日のおまじない!!
全然効かないじゃん!!
ホントホント!

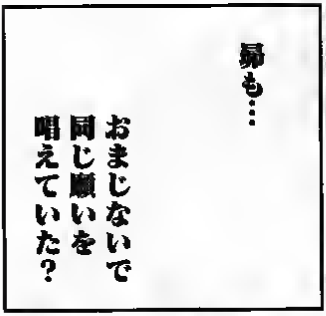
……あれ?
ぼくにはめちゃめちゃ効いたのに…

だってあれホントはもう一つ条件があるんだもん
え?なに?

相手の人も
同じ願いを
おまじないに
唱えてなくちゃ
いけないのよ

……
は？
えー…
なにそれ？

でもそれって
最初から両思い
じゃないと無理
ってことじゃん
意味なくない？
ほんとだー
ははは
……


昴も…
おまじないで
同じ願いを
唱えていた？

部屋が
繋がります
ようにって？
あ
川奈さん
おはよー
おはよう

きっと
昴の方が
先に唱えていて…
それで昴が
主・契約者
だったんだ

昨日
あんなことが
あっても
教室での昴は
やっぱり
天空の
お姫様だった
ガヤ
ガヤ
ガヤ
ザワ
ザワ
隣
空いてる？
……

幻滅したでしょ？
私のこと
まさか
それどころか…
すごく嬉しかったよ

昴の本心が聞けて
あんなの本心じゃない！

…いいわもう
これから自制心を失ってる1時間の間はあなたから離れてどこか遠くに行ってる
ダメだよそれじゃ
その辺の通りすがりの人に発情しちゃうかもしれないじゃないか
バカにしないで
自制心がなくなっただけで善悪思ってないことをする訳じゃない

まだ自制心のある昴の手を握った
ビニッ
そしてぼくは…
……
あなた以外の前じゃ
どんなに自制心を失っても絶対ああはならないわ

……

調子に乗るな

やっぱり昴は…近いようで遠い
気安く私に触らないでくれる？

また濡れちゃうから
えっ？

すぐそばにいる
彼を目にする度…
ぼくは
彼女との距離を
思い知る
今朝の
教室
おはよう
ございます
おはよう
彼は僕の
幼なじみだ
子供の頃は
毎日暗くなるまで
一緒に遊んでいた

君は淫らな僕の女王

第2話

ちゅん
ちゅん
ん…
いたたたた…

ん…
!?

ったく…

あんた何
私のおっぱい
見て鼻血
流してんの？
この鼻血は
お前が歌った
からだ!!

ぼくと
幼なじみの昴は
学校の寮で今
同棲をしている

もちろん学校の寮で
男女が同じ部屋で
あるわけがない

裏の神様が
男子寮のぼくの部屋と
女子寮の昴の部屋を
繋げてくれたんだ

ぼくと

昴の願いを
きいて

でも
その願いと引き替えに
裏の神様は
1日に1時間だけ
昴の自制心を
奪ってしまう
ことになった

自制心が0(ゼロ)になると
人は本能のまま
動物のように
行動してしまう

まして昴は
超お嬢様
育ちだ

普段は
強力な自制心で
色んな欲を
抑えている彼女が
自制心を失ったとき…

わかってる
でしょうね？
もし私が自制心を
なくしている間
それに乗じて
私にHをしたら…
タダじゃ
おかないわよ
この部屋から
出て行って
二度と口をきかない
バタン…

……
わかってるよ
それじゃ
先に学校
行ってるわ
あなたも
遅刻しない
ようにね

普段は
ぼくに冷たい弟
そんな弟も
自制心をなくした
ときだけは
ぼくを好きだと
言ってくれる
そのことは
うれしい
でも
それは…

自制心のあるときに
ぼくを好きだと
言えないほど

ぼくは彼女に
ふさわしくない
男ということでも
あるんだ

とにかく昴は
恐ろしく
かわいい

「クラスの中では」
という
定義ではない
テレビや雑誌の
アイドルと比べても
明らかにかわいい

しかも
かわいいだけじゃ
なくて…
東大進学率50%を
超えるこの学校で
常に学年トップの
成績だ

家は旧華族で
生まれも育ちもいい
そして かわいい上に
努力家だ
弱点がない

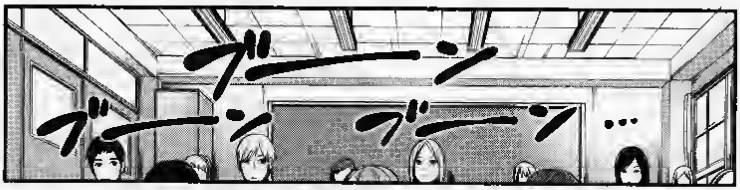
可愛すぎて逆に
性的な物を
一切想像させない
どんな男子も
彼女の前で下ネタを
話すなんてことは
絶対に無理だ

たぶんクラス全員が
思っている
あと数年後に
「あの川奈昴と同じ
クラスだったんだぜー」と
自慢出来る女の子だと

ぼくだって
幼なじみでなかったら
彼女の
半径10メートル以内に
近寄ることは
出来なかっただろう

でもぼくは

昴の可憐な姿が
彼女の芝居だと
いうことを
知っている



ただいまー
ガチャ
あれ？
ぼくの洗濯機が回ってる…
ゴーン
ゴーン
……なによ
もう帰ってきたの？
帰ってこなくていいのに
……
ぼくの洗濯機が回ってるけど…
あんたの洗濯物が臭いのよ
耐えられないから回しておいた
……
そうかよ
ぼくと2人だけのときは学校で見せる可憐さの微塵も感じさせない

普段の昴は
男勝りで がさつだ

というよりも…

ぼくが幼い頃
昴を男女と言って
しまったために彼女は
無理して女らしく
振る舞うように
なってしまった

イーン

でも ぼくが
好きになったのは
普段の昴だ

不器用で がさつで
素直じゃない昴だ

だから学校でみんなが
「川奈昴」だと
思っている彼女は
ぼくには作り物の
ように思える

しかし昴は
勉強が好きだな

はぁ？
好きなわけ
ないでしょ？
仕方ないから
してるだけよ

学年トップの成績を
維持するために
昴は努力を惜しまない

休みの日でも
遊んでいるところを
見たことがない

……

その割には
学年トップ
なんだよな…

一体将来何がやりたくてそんなに勉強してるんだ？
ほっといて
あんたには関係ない
……
こんなにかわいいんだから…そんなに努力しなくたって器量だけで生きていけるだろうに…
学校での可憐な昂
家でのがさつな昂
これでもまだ彼女の本性ではない
もうひとつ…最後の第3形態を残している
カラン…
ねぇ

私のおっぱい…
舐めて欲しいの…
帰の自制心が0になった…!!
わたしね…
さっきあなたが帰ってくる直前まで…
ずっとオナニーしてたんだよ…
部屋に変な匂いが充満しちゃって…
ばれたらどうしようってドキドキして…
スル
そしたらまた興奮して替えたばかりのパンツがぐしょぐしょになって…

どんなオナニーしてたか聞きたい？
……
洗濯機の中からあなたのパンツを取りだして…
チューチュー吸いながら夢中でクリトリス擦ってたの
すっごいぐちょぐちょに濡れて…
すっごい興奮して何度もイッちゃったの…
私変態だから……
あなたのパンツをよだれでびしょびしょにしちゃったから…
バレないよう慌てて洗濯機に入れて洗濯したんだ〜
ホントはあなたを直接舐めたかったんだけどパンツで我慢したんだよ？
えらい？
いや…パンツ吸ってる時点で偉くはないと思うぞ…
でもやっぱりもうパンツじゃ我慢出来ないの…
本物舐めたい…
本物？

本物って…
だっ…
ダメだよ!!
絶対に
ダメ!!
お願い…
お願い…
精子…
見て…
あなたの
精子
飲みたいの…
このローター
…
今日
学校でもね…これ使って
授業中に
オナニー
してたの…
えっ!?
だって…
あなたの顔を
見ながらオナニー
したかったん
だもん…
ここじゃあなたに
ばれちゃうから
学校でするしか
ないじゃない…

結局
全部 自分で
ばらしてるん
だから同じだ!!
授業中にね…
これのスイッチを
入り切り入り切り
しながら あなたを見て
オナニーしてたんだよ…
私オナニーすると…
変な匂い
しちゃうから…
バレないか
すごくドキドキ
しちゃった…
途中でバイブが
壊れて…
音が大きく
なっちゃって…
先生に気が
つかれちゃって…
バレるかもって
考えたら軽く
イッちゃった…
……
授業中に
バイブの音がしたのは
携帯じゃなくて
本当にバイブの
音だったか…
お願い…
あなたの舐めながら
オナニーしたいの…
いっぱい
精子飲みたいの
…

ギシ…
お願い…
お願い…
わかってるでしょうね？
もし私が自制心をなくしている間それに乗じて私にHをしたらタダじゃおかないわよ
……固定観念をすると…
ドクン
ドクン
Hさえしなければ怒られないんだろうか…
……
ドクン
ドクン
冷たい肩の手の感触…

あっ…
ピク
のる…
ぬりゅ…
びくっ
びくん
れる…
おいひぃ…
おいひぃよ…
あたたかい…
!?
やらかい
昴の口の中…
こんなこと…
ジュル
ジュル…
すごく
気持ちいい…

くにっ…
うっ…
あっ…

昴が…
んっ…
ぼくのを咥えながらオナニーをしている…
チュパ
チュパ

床に広がるあの液体は…
昴のおしっこなのが違うものか…

裏の神様が昴から奪ったのは半に自制心だ
別にエロくなる魔法をかけたわけでもない

だからこれが…
ころころ
昴の本性なんだ…

ダメ…
ダメだよ…
出そうだから…
出ひて…
飲みたいの…
いっぱい
飲みたい…
出ひて…
出ひて…

でも…
うっ…
あっ…

こくん
ごくっ
ん…
飲んらっら…
やらひぃ…

ちょっと
こぼれちゃった…
はあ…
もったいない
はあ…
もっと…
飲ませて…
ハア…
くー…
いつも
一通り満足すると
昴は寝てしまう
1時間も
自制心をなくすと
おかしくなるから
きっと脳の
リミッター的なものが
働いてるんだろう
気持ち
良かった…
まるで
夢のようだ
昴にこんなこと
してもらえる
だなんて…
ん？
なんだ
あれ…
写真？
……
これって…

チュン
チュン
ん…
あ…
プル
プル
……
も…
もう起きてたの
今日は
早いのね
昨日には
自制心を失っていた
間の記憶も
残っている
でも
自制心がなかった
間に起きたことの
話はしない
それが ぼくたちの
暗黙のルールだった

そうでなければ
きっと
昴の心は
壊れてしまう
昴に
聞きたいことが
あるんだ
なに？
その写真に
写ってるのは
だれ？
……
ああ…
私の
結婚相手よ
この人と
結婚するのよ
大学の
卒業後に
えっ？
親が決めた
許嫁とね
……

今時
そんなこと…
普通の人なら
そうなんで
しょうよね
でも
「上の方の
階級」では
今でもよくある
ことなのよ
親同士が
決める
結婚なんて
断れないの？
当たり前
でしょ？
私の
お婆様も
お母様も
そうやって
結婚したのよ
来年には
私のお姉様も
そりゃ
お母様もお姉様も
イヤだった
でしょうよ
自分が好きな人と
結婚したかった
でしょうよ
でも
みんな我慢して
親の言うことに
従ったの
私だけが
わがまま
言えると
思う？
でもまぁ
結婚してしまえば
みんな幸せそうよ
……
親だって
適当に相手を
選んでるわけじゃ
ないから

その相手は…
田島造船所の御曹司(おんぞうし)だって
今時造船所ってどうなのよって思うけどね
でも その会社
意外に世界全体での売り上げ額はアップルより少し多い位なのよ
社員はアップルの10倍いるからその意味じゃ大したことないのかも知れないけど
……
ま おじさんなのがデメリットね
お金はあるんだから今まで相当遊んでるんでしょ
……
そんな…
そんな ただ金持ちの家に生まれてきたたけの奴に国を取られるなんて…
その人 東大法学部卒だって
私立とかなら親の金でどうにかしたのかと思うけど東大じゃそういうわけにもいかないしね
……

それじゃ私も
学校へ行く
準備をするから
あなたもう
着替えたのなら
早く行けば？
ギィ…
バタン

足下が…
崩れていく…
たとえ昴が
本心では ぼくを
好きなのだとしても
昴は
親が決めた許嫁と
結婚することを
選ぶだろう
彼女の自制心は
それほどに強い
そのことは
ぼくが一番
知っている

体の距離だけ
近くたって
何の意味もない
そんなこと
わかってたのに…
ぼくは昴と…
一緒になることは
出来ないのか…

キーンコーン
斉藤はどうした？
あ 今日は休みみたいです
具合が悪いって連絡が
そうか
……
……
あのクソちび…
……
どうしたの？
川奈さんが…クソちびって言った気がしたから…
え？
川奈さんがそんな言葉遣いするわけないでしょ？
……

具合悪いの？
ん…
そういうわけでもないんだけど
……
ずっと
昴に会いたくて…
この学校に
入れるように
一生懸命
がんばって…
特待生に
なれたから…

なんだろ
がんばれば
夢は叶うもん
なんだって
思い込んでたんだ
本当は
がんばったって
どうにもならない
ことの方が
多いのにな…
調子に乗ってた
自分が
腹立たしくて…

……
昴は ぼくを
慰めたり
なんかしない
そんなことは
わかってる
表面(しょうふ)の昴は
決して本心を
表に出さない
裏の神様に自制心を
奪われない限り…

……
はぁ…

ガロ
!?
ロロ

昴!!
何なんだよ
!?
はぁ…
……
ねぇ…
いいんだ!!
もうほっといてくれ!!

ん…
エッチ…
したいな…
は？
あ…
あなたの…
なに
その…
せせせせせ
精子
入れたいの……
あ…
暑いなー
パタパタ
パンツ
脱ごっかなー
……
ひょっとして
昴…

自制心を
失った振りを
している!?
あの…
あのね…

許嫁と
結婚しなくちゃ
いけないのは…
本当
なんだけど…
その…
がんばって
お父様に
条件つけさせたの
えっ?

中間と
期末テストで
3年間ずっと
成績が学校で
一番だったら
私の希望を
ひとつ叶えて
くださいって
私が…
好きな人と
結婚させて
くださいって…

だから…
私 勉強
がんばってるの
ずっと一緒に
いたい人が
いるから
私
がんばるから…
だから変に
落ち込まなくて
いいから……
……
昴が…
毎日あんなに
勉強してたのは…

ぼくのため
だったのか？
毎日…
ぼくのために…
休まず
勉強して…
だから…
あの…
じゅ…
受精したい…
ねぇ…
私も……
舐め舐め…
舐めて…
私の…
くくくく…
クリ
トリ…とか…
舐めて…欲しい
ねぇ…
えと…
その…

昴
無理しなくていいよ
自制心まだあるんだろ？
!?
だって照れがあるもの
黙ってようかと思ったんだけど…
これ以上は痛々しくて見ていられないから…
うっ…
うわぁあぁぁぁぁぁ!!
うわぁあぁぁぁぁん!!

死にたい
死にたい
死にたい!!
死にたいよー!!
自制心を失ったフリでもしないと本心を話せないなんて…
どんだけ素直じゃないんだよ

最低でも東大!!
えっ?
文Ⅱでもいいから入って!!
そうじゃないとお父様に紹介出来ない!!
私だけに勉強がんばらせるつもり!?

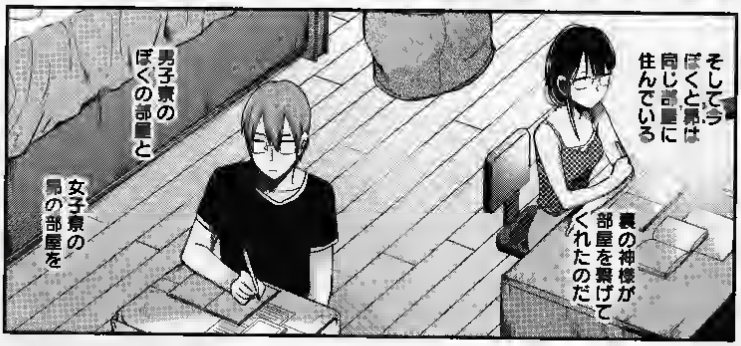
タッ

な…
なんだ？
誰だ？

がんばれば
叶う願いが
どんなに
ありがたいか…
そのことを
今 知った
当然だ
ぼくだって
がんばる

Lynn Okamoto's Name 02

君は淫らな僕の女王
第3話



ぼくと昴の
願いをきいて

それと引き替えに
昴は1日に1時間だけ
自制心を…
裏の神様に
奪われてしまうことに
なった
ギシッ
ねぇ
なに
肩凝った
揉んで
……
あのさ
ぼくは昴の
奴隷じゃないぞ
あんたね…
自分の立場
考えなさいよ

あんたみたいな
何の取り柄もない
クソちびが
私みたいな超絶美少女と
同じ部屋に暮らせて
同じ空気を吸えるのよ？
それがどんなに
恵まれたことか
わかってんの？

肩くらい揉んでも
罰が当たらないどころか
御利益にあやかれるわ
……
いいから揉め
自分のことを
超絶美少女とか…

はぁ…
5分だけだぞ

もみ
はぁ…
もっと強く
揉んでよ…

実際
昴は すごく
かわいい

学校一どころじゃなく
県下一くらいの勢いだ

昴は
名家のお嬢様だ

そして

親が決めた
許嫁がいる

相手は東大卒で
とんでもない
金持ちで…

ぼくに勝てることは
若さ以外に何もない

でも昴は父親と
約束したそうだ

校内の試験で
学年1位を3年間
続けられたら
好きな相手と
結婚していいと

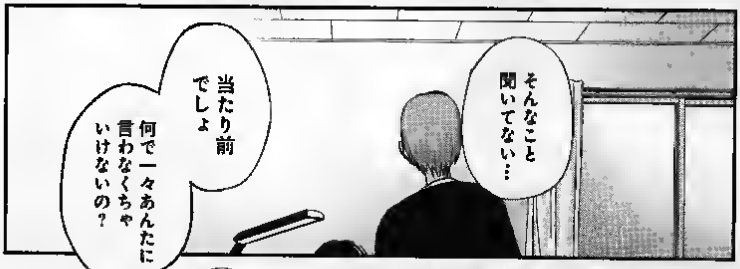
それで昴は毎日
一生懸命
勉強しているら

恐らくは
ぼくと結婚
するために

そして ぼくも
彼女のお父さんに
認めてもらうために
東大を目指している

私ね……

明日お見合いに行ってくるわ
えっ!?
初顔合わせなのよ許婚と
近くのホテルで昼食会ですって
……


そんなこと聞いてない…
当たり前でしょ
何で一々あんたに言わなくちゃいけないの?

一緒に住んでるからって勘違いしないで
別にあんたと私はなんでもないわ
はぁ
は!
……
弟はお嬢様だし外ヅラは完璧に近いだけど……
本当はバカだ

いつも ぼくに
肩を揉ませながら
オナニーを
している
あっ…
んっ…

あんた
肩揉み上手ね
…
すごく気持ちぃ…
はっ…
でも弟は…
ぼくにバレていないと
思ってるらしい

彼女と一緒に住むように
なってわかったけど
とにかく弟は
オナニーばかりしている
ティッシュの
使用量が半端ないし
なんというか
すぐにわかる匂いがする

でも前にサービスだと思って腰の辺りを揉んだら思いっきり叱られた
んっ…
げに難しきは乙女心…
トン
トン
トン
あっ…
叩くのはダメ…
もっと…手のひらで肩を包むように揉んで…
……
女王様は皮膚の接触をご所望らしい…
んっ…
ふっ…
ゲホッ
ん……
あっ…
触られてる
いやらしく体を触られてるよ
はぁ…
はぁ…

はい5分終了
えっ！
ぱっ
さて
勉強勉強
ズーン
……
もう少しでイキそうだったのかな
まぁこのくらいの意地悪はしないとな
ガタッ
どうしたんだ？
トイレに行くだけよ！
トイレでオナニーの続きか…
わかりやすい…

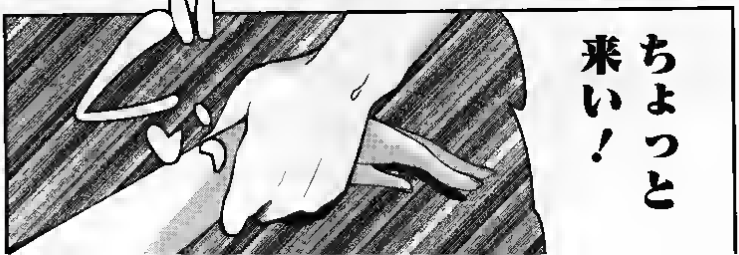
自制心があっても
なくても昴は変態だ
ただ自制心があるうちは
絶対にそのことを
外に出さない
それに学校の連中は
今でも昴を聖女のように
思ってるから
一緒に住みさえ
しなければ きっと
バレないんだろう

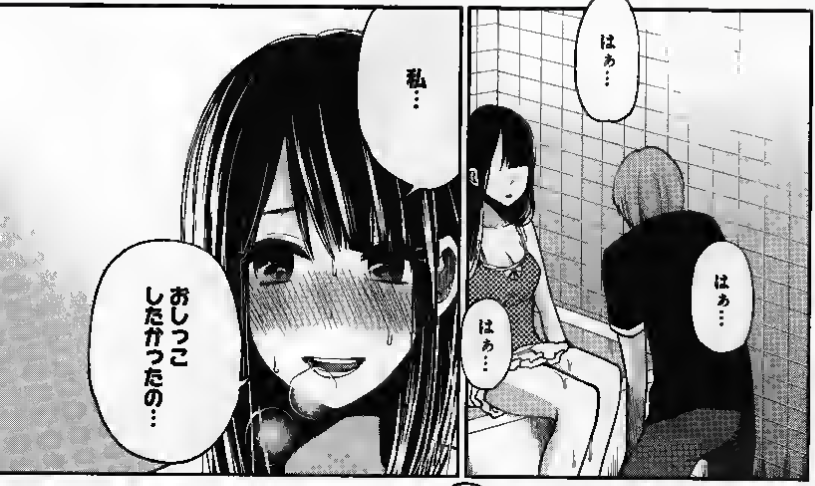
たまたま ぼくと
住んでるから
知っているのは
ぼくだけど…
きっと別の男と
住んでいれば
別の男に…

どうしたんだ？
トイレに
行かないのか？
目に光が
ない…
これは…
自制心を失った
ときの顔だ

じょぼ
ちょっ!!

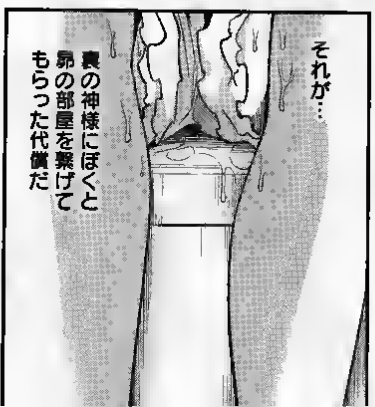
ダバ
ダバ


ちょっと
来い！


はぁ…
はぁ…
はぁ…
私…
おしっこ
したかったの…

スッキリした…
ああ
ああ
そう…でも次は
トイレで
しような…
昴は1日1時間だけ
人としての自制心が
なくなって…
動物のように
本能だけで行動する

えっ？
脱ぐ
パンツ濡れて
気持ち悪い


それが…
裏の神様にぼくと
昴の部屋を繋げて
もらった代償だ

……

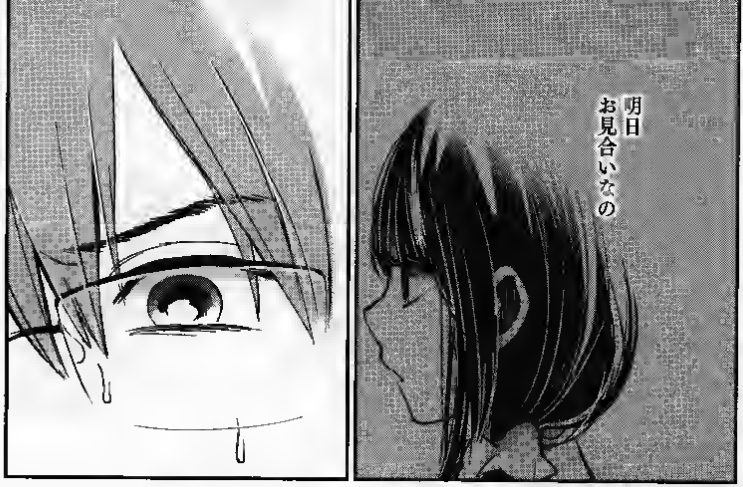
さっきね
…
あなたに肩を
揉まれながら
オナニーして
たんだよ…
知ってる

あなたの
舐めたい…
舐めながら
オナニーの
続きがしたいの…

自制心を
失った方の
肩揉みではなく
ズル…
フェラをじながら
オナニーするのが
マイブームだ

あっ…
んっ…
くちゅ…
ふっ…
れっ…
にゅちっ…
昴の口の中…
舌の動き…
気持ち…いい…
じゅぱっ
おいひぃ…
おいひぃよぉ…
こんなの…
おかしいよ…
え？

どうして
あなたがいるのに私
オナニーしなくちゃ
いけないの？
セックス
したいよぉ…
見て…
ここ…
こんなに
ぐちゃぐちゃ
なの…
あなたに犯される
ところを想像しながら
オナニーしてたん
だよ…
何度も…
何度も
精子
ぶちまけられて…
ここに…
入れて…
精子入れて
欲しいの…
愛精
したいのぉ…
はっ
はっ…
セックス
してよぉ…
着床
したいのぉ…
孕ませて
よぉ…



今
着床させれば…
昴を
ぼくだけの
ものに出来る…

ダメだ
ここでHをしたら
昏睡強姦
みたいなもんだ
酒を飲ませて
酔わせて
Hするのと
何の違いがある
自制心のあるときの
昴と…
Hをしなきゃ
ダメなんだ…
……
だったら…
舐めて…
ここ…
いっぱい
舐めて
欲しい…
……

ピチ…
あっ!!
びくっ

びくっ
うぁあああ…!!
びくん
きもち
いいっ…
きもちいい
よおおおお!!

昴のここは
ぐちゃぐちゃで
息をするのも
辛い…
おぼれそうだ…
ちょっと苦いのは…
おしっこの味…
なんだろうか…
ああぁあぁあ!!
ダメダメダメ……!!
もういっちゃう
スグいっちゃう…

うあぁあぁぁあ!!
ビクビクッ!
がく
がくがく
ガクン
うわ!!
ヒュー…
ヒュー…

まさか…
今生で昴のおしっこを拭く日がくるなんて…
まあ…
拭きながら興奮してるぼくもたいがいだけど…
こんな普通じゃない昴との生活に幸せを感じるぼくも普通ではないのだろうか
ずっとこうしていられればいいのに…
昴を誰かに取られる不安で押しつぶされそうだ

ん……

ちん
ちん

そうか…
お見合いに行くのか…

昴…

それじゃ行ってくるわ
ああ

……

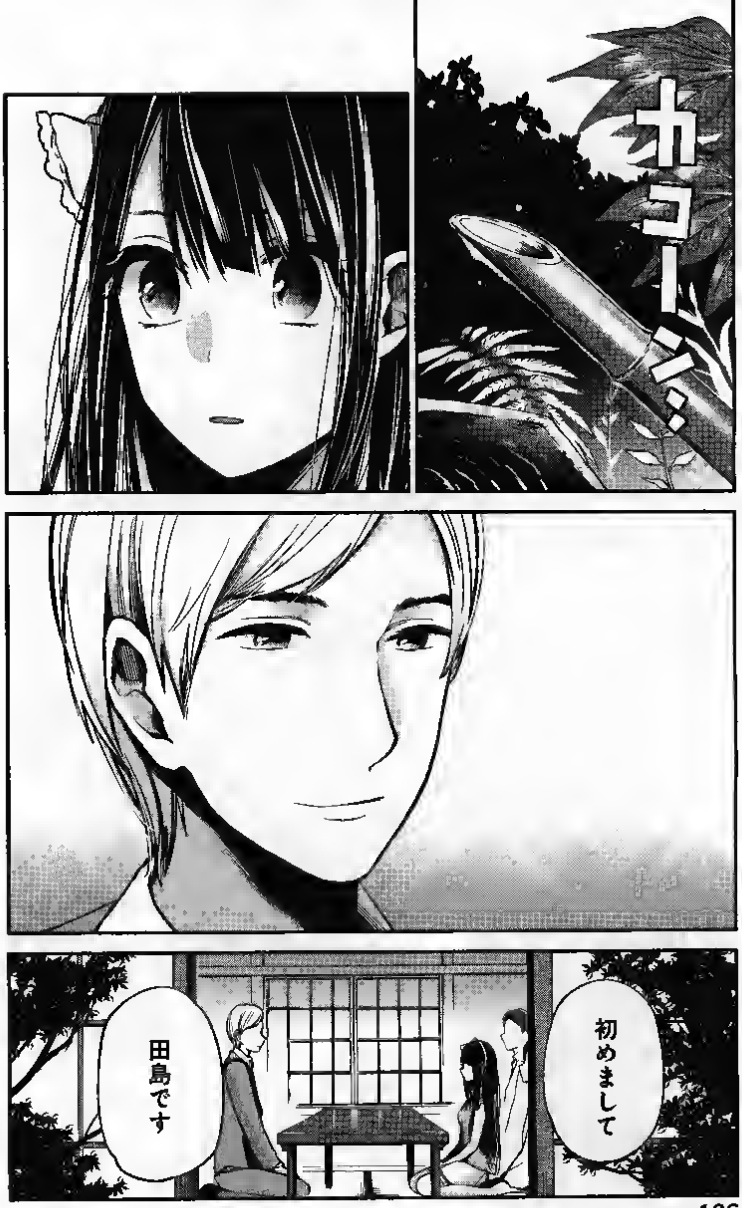
顔合わせに
行くだけよ
成績で1番を
とり続ければ
破談にするって話は
絶対お父様に
守らせるから

行ってくる
バタン…

昴は お見合いを
破談にする気でいる
でもそれは
相手に会って
昴が心変わりを
しなければの話だ

そしてぼくが
こんな心配を
しなくちゃ
いけないのは
自分に自信が
ないからだ

ぼくが昴に
ふさわしく
ないからだ…

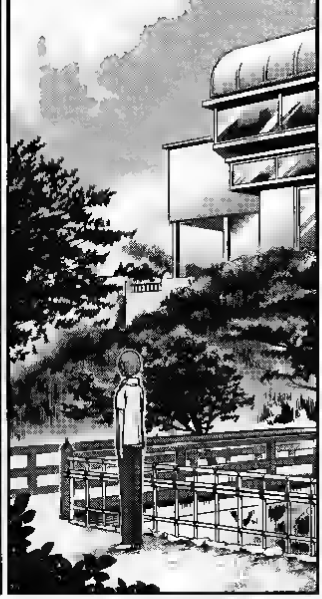

ホーン
初めまして
田島です

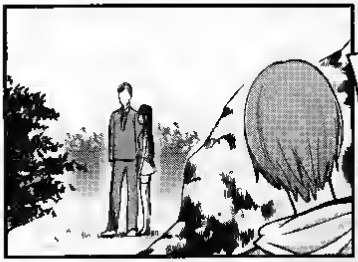
Feel Seasons Hotel

近くのホテルって…
ここか？

あまりに不安で飛び出しては来たものの…
ここは…高校生がTシャツで入っていい場所なんだろうか…
ポロシャツに短パンで日本のどこへでも観光に行くイメージの外国人でさえここではスーツを着ている
……構わない！行け！

すごい…
お見合いの後
それでは
ご当人同士でお話を…
とか言って
散歩しそうな庭園だ…





!?
ホント
ですか?

!?

昴…
ホントにいた…

あれが…
田島造船所の
御曹司？
な……
なんだあの
イケメンは…
写真では…おじさんに
見えたのに…
そんな…
東大出身でアップルを
超える売上高の
会社の社長で…
あんなイケメンで
独身なんて…
完璧すぎる…

……

そりゃ
そうか…
ぼくや
その他学校に
いる男子とは
レベルが違う…
昴が
初めて出会った
昴にふさわしい
男なのかも
しれない…

来るんじゃ
なかった…

えっ？
コッ
コッ

あっ…

あんた
何してんの？
!?

ご…
ごめん

心配で…
……

ドクン
いても立っても
いられな
かったんだ…

えっ…
この目は
まさか…

わ――!!
ゴゴゴ
どうかしたのかい？
!?
きゃあ!!
ど…
どうしたんだ!?
こんなときに…
昴が自制心をなくすなんて…
初めて…ぼく以外の他人の前で…
ほら捕まって…
ねぇ

私…
セックス
したいの…
は？
わたしの趣味はね…
フェラチオオナニー
なの
しゃぶりながら
オナニーするの
大好きなの…
……
舐めたいの…
舐めて
欲しいの…
ついに他の
男の前で…
昴の…
自制心がなくなって
しまった…
昴はもう…
見境なく
セックスを
求めてしまう…
ただの
動物だ…
何でも
舐めさせて
あげるから
しっかり
捕まりなさい

ドゴォッ
うわっ!!
ザパー
プハ!!
一体どうしたんだ!?
舐めたいのはあんたんじゃないわ――!!

いい年してJKとの
見合い話
受けんじゃないわよ
このロリコン社長が!!
社長なら社長らしく
机の下に収納した
年増の秘書にでも
しゃぶってもらえ!!

こっちが
愛想笑いしてれば
調子に乗りやがって
……
どさくさで
この私の顔まで
触るなんて
思い出しても
おぞましいわ!!

どんなに
若作りしたって
あんたの
その加齢臭は
イングリッシュ
ファーンでも
誤魔化しきれて
ないのよ!!
……

そうだ
男は
自制心をなくしただけで
淫乱になるわけじゃない

ただ本能の赴くままに行動するようになるだけなんだ
自制心がないときに昴がぼくに発情するのはぼくが好きだからで…
今婚約相手を黒制してるのは相手が嫌いだから…
さっきの笑顔の方が…
自制心で作り出した仮面だったんだ…

あっちゃーん…
!?
あっちゃーん…
どこー?
おうち帰ろうよー…

あっちゃーん…
ぼくを呼んでる…
子供の頃にぼくを呼んでいた呼び方で…
あっちゃーん?

それが…
なんでこんなに
嬉しいんだろう…
昴
あっちゃん！
ザッ
ザッ
あっちゃん!!
セックス
したい!!
しないよ…
今の昴とは…

あっちゃーん…
おいしいよ…
だめだよ…
人が来る…
じゅる
じゅる
じゅる

あっちゃんの
精子飲まないと…
もう私
イクないよ…
……
男は
一度自制心を
失ってしまうと
1時間が過ぎるか
イクかしないと
元には戻らない

昴…
どうして
ぼくなんだ？
？
さっきの
社長の方が…
ぼくなんかよりも
ずっとスペックは
上なのに…
どうして
ぼくなんだ？
理屈に
合わないよ…
……
あなたは私の
スペックが
好きなの？
えっ？

あなたを
好きになるのに
理屈が
必要なの？

……
そうだな

……
それは
それとして…
ごめん…鼻…
出そう…
出ひて…
いっふぁい
出ひて…

昴のこの好意を…
不安に思うような弱い男じゃいけないんだ

お見合い勝手に抜け出して来ちゃって…
あとでお父様にこっぴどく怒られるわ…
そりゃもう相手には会えないだろう…

趣味はフェラチオナニーですとかってカミングアウトしちゃったし…
ゴ!!

痛っ!!
私が自制心なくしてるときの話をしたらもう絶縁よ!!

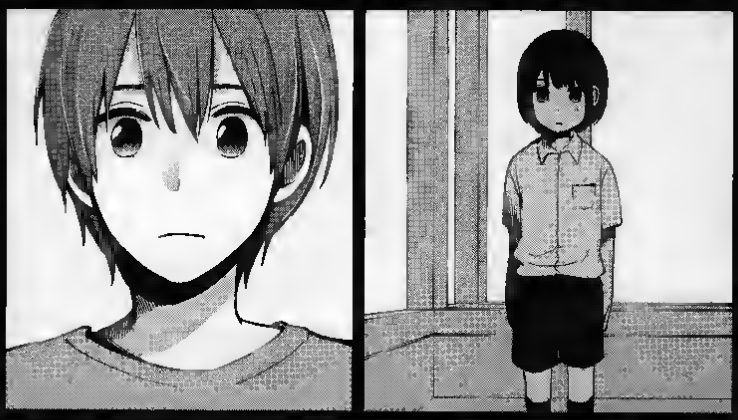
でもぼくは
どっちの昴も
好きだよ
私はあんたの
ことなんか
全部嫌いよ!!
昴の自制心は
相変わらず堅い
……
でも昴に自制心が
あるときでも
ぼくを好きだと
言ってもらえる
ような
昴にふさわしい
男に
絶対なるんだ

いつもぼくに
肩を揉ませながら
オナニーをしている
あっ
んっ
あんた
肩もみ上手ね…
すっごく気持ちい…
はっ…
でも肩は
ほぐしばれていないと
思ってるらしい
彼女と一緒に住むように
なってわかったけど
とにかく肩は
オナニーばかりしている
ティッシュの
箱用意が半端ないし
なんというか
すごくにおう部屋がする

君は淫らな僕の女王
第4話

初めて
彼女と会ったときの
ことを
ぼくは
鮮明に
覚えている
雨が強い日
建築途中の
家の中で
ひざから
血を流して
泣いている子がいた
ひざから
流れる血は
結構な量だった

ハンカチなんて
持ってないから
三分のシャツで
だらけの
ざを拭いた
もう血は
止まってるから
大丈夫だよ
この土台を
たどって
アミダとか
やってたんだろ？
えっ？
ぼくも
こないだ
やって転んで
落ちちゃってさ
それじゃ
ぼく
お使いの
途中だから



その子が
女の子だと
知ったのは

それから
しばらく
たってからだ

お前も
まだ16だ

向こうには
事情を話して
見合いの返事を
待ってもらっている
だが
私の心は
決まっている
田島のところへ
嫁ぐのが
最善の選択だ

ですが…
わかっている
高校の定期試験で3年間
学年トップを続ければお前が好きな相手と結婚を許す
だがもしそれが出来なかったときは私の言った通り田島へ嫁いでもらう
成績トップの条件はお前が泣いて頼むから認めてやったのだ
それ以上のわがままは一切許さん
わかったな？
……
返事をしろ
……
わかりました

ゲホッ
ゲホッ
ゲホッ
ゲホッ
……
勉強なんて
やめて
もう寝たら？
そんなわけに
いくかバカ
あんたは
気楽で
いいわよね…
明日から
期末試験よ？
そうだけどさ…
あんたも…
マスクしたら？
うつるかも
しんないから
ああ…
ぼくは
平気だよ
うがいしてれば
案外 風邪なんて
うつんない
もんだし

バカはいいわね
言うと思った…
熱測ったのか
ほっとけ
熱があったらイヤな気分になるでしょ？
病は気からよ
どれ…
ちょっと!!
なれなれしく触んないでよ!!
……
熱い…
ダメだよ昂
もう寝てないと
……
それじゃお注射して？
は？

ふっとい
お注射を…
お願いします
…
ぎ
し…

また突然……
昴の自制心が
なくなった…
ねえ…
ふとおい
お注射して…
昴…
お前は安い
エロ動画の
見過ぎだ…
だいたい
なんで
パンツ穿いて
ないんだよ…

それに
申し訳
ないけど
昴
ぼくの お注射が
それほど
太くないことは
君も知っている
はずだと思うけど…
あっ…!!
ごめんなさい…
うっかり
してた…
……
すぐ
認められるのも
傷つくな…

ねぇ…
細くても
短くても
いいから
お注射してよ…
もう
ガマン
出来ないよ…
……
弟が自制心
あるときじゃないと
Hはしないって
何度も言っただろ？
あります
あります！
自制心
あります!!
そんな
ヌルヌルを
床まで垂らしながら
言われてもな…
これは
汗です!!
汗
なんです!!
お願い…
あなたが
大好きなの
ここに
入れて
欲しいの
ずっと
入れて
欲しいの
排卵する…
排卵するから
あなたの精子を
卵子にぶっかけて
欲しいの…
……
ぼくだって
ぶっかけたいよ…
ホントは…

でも…
挿入以外なら
何でもするよ…
……
それじゃ…
キスしたい…
くちゅ…
にゅる…
男が出す物は
よだれでも
なんでもおいしい

昴のおっぱい…
舐めてください…
ドッ
あっ!!
昴の乳首…
他の…誰にも渡したくない…
れろ…
うあぁっ!!
もっと舐めて…!!
もっと噛んで…!
びくん
びくん

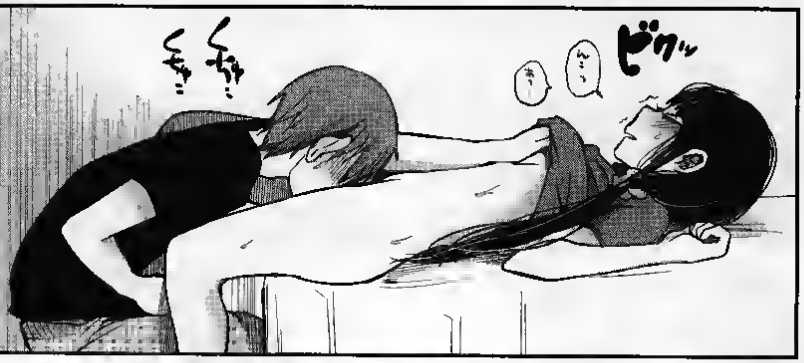
乳輪の
ポツポツの数や
配置まで…
心に
刻んで
おこう…
ふああ
あああ!!
バッ
えっ!?
こめんなさい…
ぐちっ
こめんなさい…
ぐちっ
でもガマン
出来ないの…
ぬるっ

気持ちいいよぉ…
気持ちいいよぉ…
ゲッ
昴の「汗」で…
息が出来ない…
早くイカさないと溺れてしまう…
ああっ…
ダメッ…!!
れろ
クリトリス舐めるのはダメなの!!
すぐにイッちゃう!!
あぁああああ!!
ダメダメダメ!!
びくっ
びくっ
イッちゃうイッちゃうイッちゃう!!

ふわぁぁあ
あぁあぁぁ!!
ビクンビクン

ドサッ
うっ…
ぜ…ぜ…
うあっ…

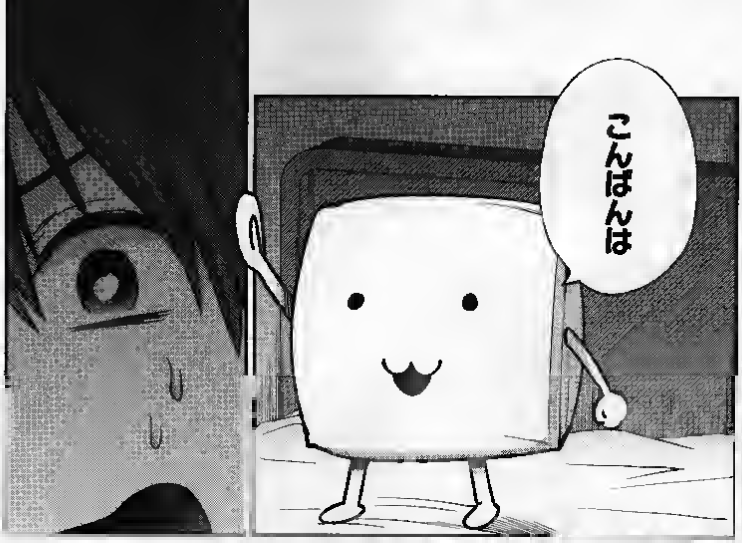
……
ぼく…
イク前に
イカれて
しまった…
イッた後の男は
自制心を
取り戻すまでの
1時間は
絶対に
目を覚まさない
つまり…
グッ



クンニ
オナニー…

結局
することは
昴と一緒だ

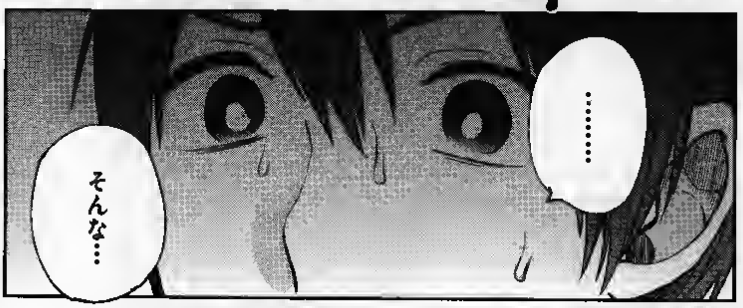
ムクッ
カチ…
……
トイレかな…
びくっ
ちょっと…
苦しいです…
えっ!?
だっ!?
だれだ!?
ここです
ここです


こんばんは

しゃべる枕！
ちがうでしょ？
裏の神様です

お前のことなんか呼んでないぞ!?
……
一応私も八百万の神の中の1人なんでお前呼ばわりはやめてもらえます？
今日は契約満了のお知らせに来ました
えっ？

今回の主・契約者の自制心はすごく強烈で
短期間でしたが今日までで一契約あたりの規定量に達しました
これで契約満了といたします
……
ということはつまり…
つまり
あなたたちの願いだった2つの部屋の繋がりはなくなり
そして主・契約者が自制心を失う時間もなくなります
お知らせは以上です
コテン
えっ!?
おい!
お前はまた言うだけ言ってどこかへ行くな
おいっ!!
そんな…
ってことは…
カチャッ



クローゼットが
扉の部屋と
繋がらなく
なってしまった…

……
えっ？

私の部屋が…
戻った…
どういうこと？

昴に連絡
しないと…

カチッ

……

でも ぼくは

昴のアドレスも
電話番号も
知らないことに
気づいた

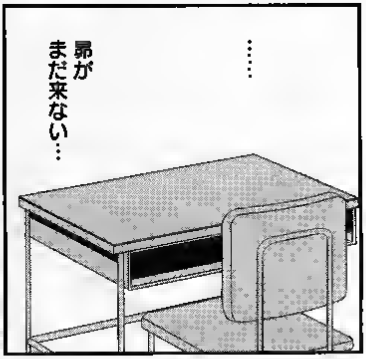
いつも
部屋に戻ると
昴がいたから…

部屋の
繋がりが
なくなった今

ぼくは
昴との繋がりも
失ってしまった

ガヤ
ガヤ

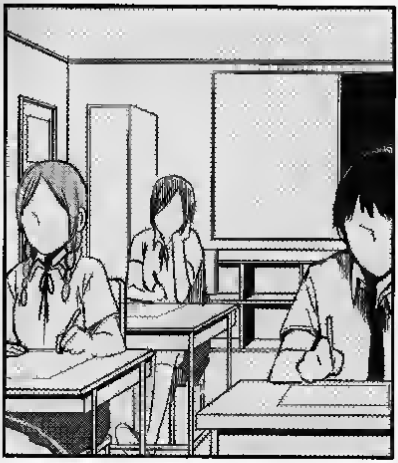
皆さん
お静かに
ガラ…


……
昴が
まだ来ない…

昴！
大丈夫
だろうか…
今日は
試験なのに…

川奈さんは
今日は
体調を崩して
遅れるそうです

……
ダメだ…
昴のことが
気になって
全然眼が
図らない…



ガラッ…

遅れて
すみません

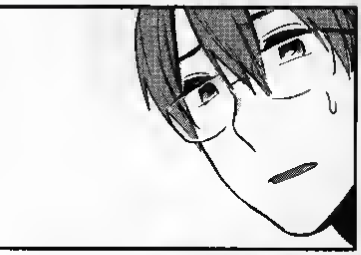
席について
試験を
受けなさい
はい

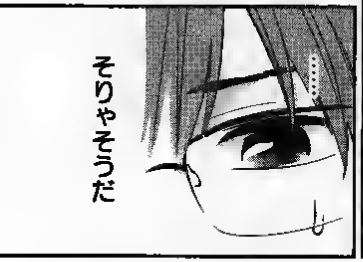
ぜー…
ぜー…

昴…
大丈夫か？
大丈夫
じゃないけど
試験なのよ
休むわけには
いかない
でしょ？

裏の神様が…
部屋を元に
戻したのね？
えっ？
……
そうだよ
契約満了
だってさ

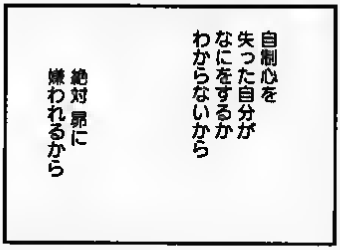
だからもう
昴が自制心を
失うことは
なくなるって
……
そう



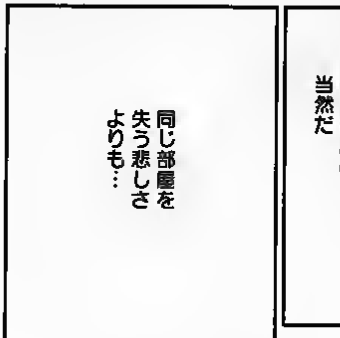

……
そりゃそうだ

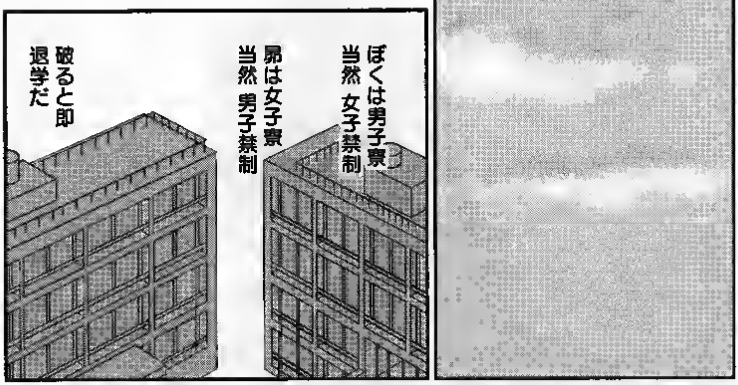
これで私は
ようやく
まともな生活を
取り戻せるのね…

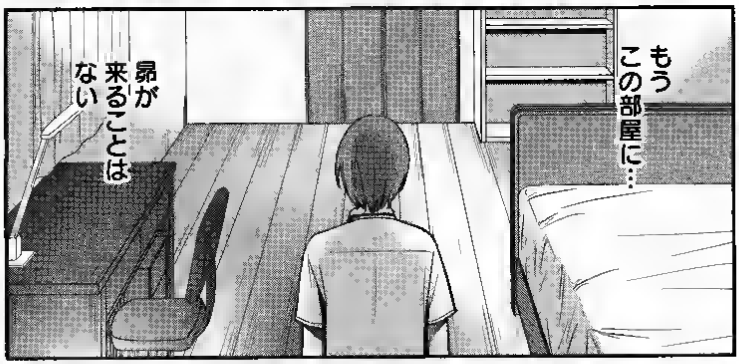
ぼくだって…
自制心を失う
代わりに昴と
一緒になれるって
言われても
きっと断るだろう


自制心を
失った自分が
なにをするか
わからないから
絶対昴に
嫌われるから

そこには
恐怖しか
残らない
裏の神様との
契約が切れて
昴が喜ぶのは
当然だ


同じ部屋を
失う悲しさ
よりも…


ぼくは男子寮
当然 女子禁制
昴は女子寮
当然 男子禁制
破ると即
退学だ

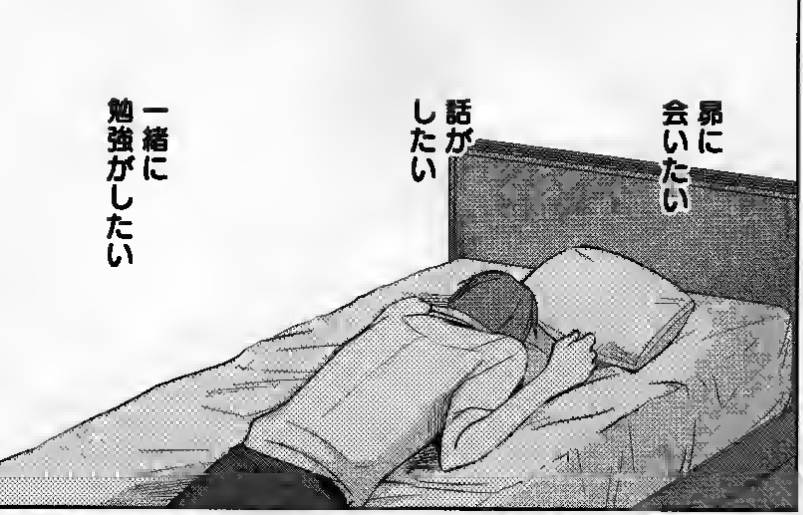

もう
この部屋に…
昴が
来ることは
ない

ベッドには
まだ…
昴の匂いが
強烈に
残っている…
ドサッ

昴に
会いたい

話が
したい

一緒に
勉強がしたい



裏の神様
裏の神様
言うとおりにしますって
言った後に
願い事をすると
その願いが
叶うらしいよ…
でも相手の人も
同じ願いを
おまじないに
唱えてなくちゃ
いけないのよ
ひょっとして…
もう一度呪文を
唱えれば
部屋が繋がるんじゃ
ないのか？
でも…
ぼくだけじゃ
ダメだ
鼻も同じ呪文を
唱えないと…
これで私は
ようやく
まともな生活を
取り戻せるのね…
……
無理だ
自制心の塊の鼻が
もう一度
自制心を失う
選択なんて
するはずがない

その代わり

ぼくの自制心は
1日1時間
なくなって
しまうけど…

だとしても…
裏の神様
裏の神様
言うとおりに
します
このクローゼットの
扉を
昴の部屋に
繋げてください
……

そう…

そもそも
弟が同じ呪文を
唱えないと
願いは叶わない

ぼくが自制心を
失うこともない

でも
もしまた弟が
ぼくと同じ部屋に
住みたいと思って
いてくれるのなら…

そのときはもう
自制心を
なくしたって
構わないじゃ
ないか!!

きっと自制心を
なくしたぼくの
醜態だって
彼女は許して
くれるはずだ

……
ひっく…

ひっく…

まさか!!

ガチャッ

遅いよ
バカ…
……
昴は…
もっと前から
呪文を唱えて
くれていたんだ…
自制心を失う
恐怖や
恥辱よりも…
ぼくと一緒に
いることを
選んでくれた…

調子に乗るな
クソちび!!
ドンッ
うわっ!!
この私の
「ファーストキス」
を…
こんな
鼻水まみれの
時に…
じゃっ。
ファースト
キス…
そうだ…

でも それ以上は
鼻が折れるほど
殴られた

そして1週間後

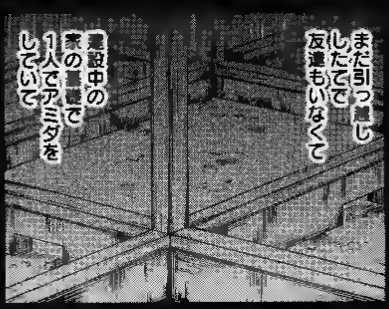
鼻の
期末試験の
成績は

5位だった

君は淫らな僕の女王

最終話

初めて
アキラと
会ったのは
私がまだ
小学生の頃
だった


まだ引っ越し
したてで
友達もいなくて
建設中の
家の裏で
1人でアミダを
していて

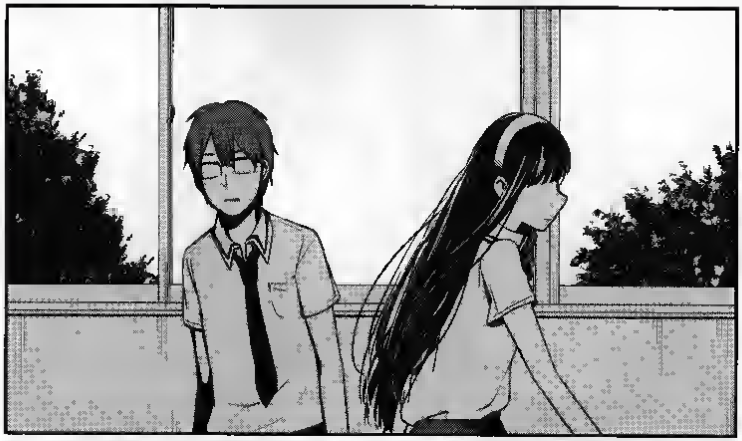
転んで
コンクリートの角に
思い切りひざを
打ち付けて
皮膚がえぐれて
血が出て
怖くて
心細くて

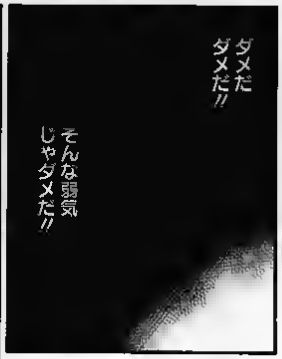
どうして
いいのか
わからなくて
ただ呆然と
泣いていた
私に

あのとき 私は
初めての恋に
落ちたんだ

今でも私は
同じ恋に
落ち続けている

一学期　期末考査
5位…
ダメだった…
ザワ
ザワ
……
あっちゃん…

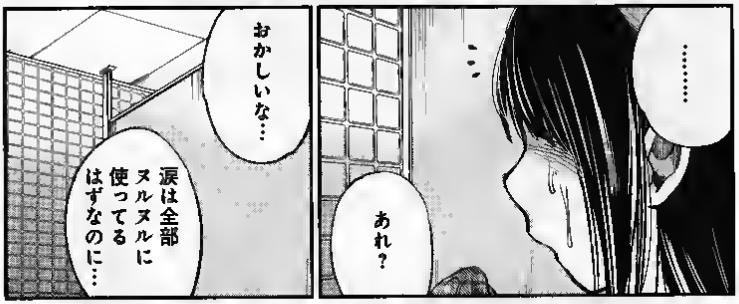


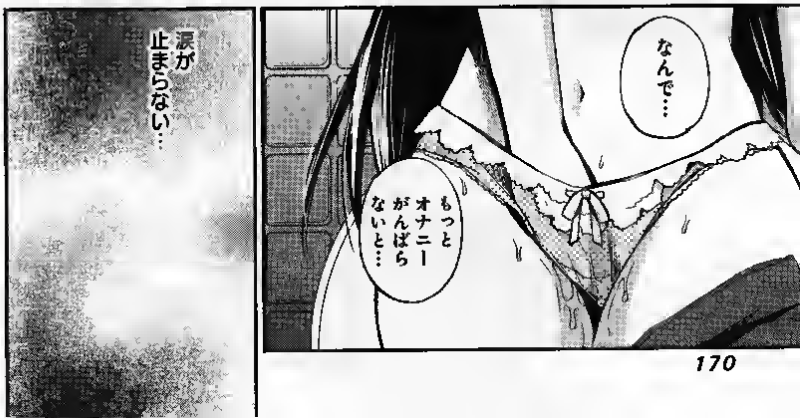


こういう
辛(つら)いとき…
いつもする
ことがある

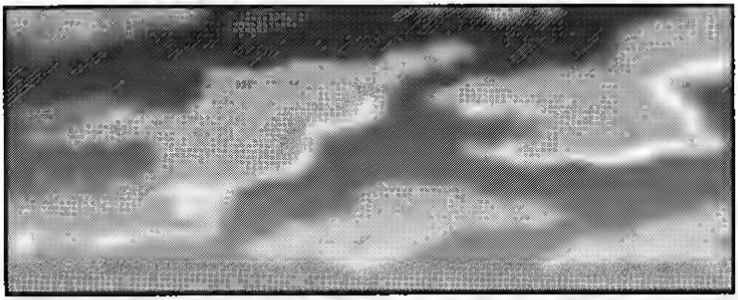
……
オナニーするか…
ズル…
ん…
あっ…
あっちゃんの匂い…
クンカクンカ

あっちゃん…
ちゅー
ちゅー
私いま間接フェラチオしている…
こんなところ見られたら…
チュウ
チュウ
すごい…私…
私この場で舌噛んで死ななきゃ…
こんなに濡れてる…
涙を別の液体にじて分泌(ぶんぴつ)する
それがいつも私が悲しいときにする涙の止め方だった


……
あれ？
おかしいな…
涙は全部ヌルヌルに使ってるはずなのに…


なんで…
もっとオナニーがんばらないと…
涙が止まらない…

ナデラ…
川奈さん
具合は大丈夫
ですか？
はい
すみません
でした
昴…



お父様は
絶対権力者に
私の家族は
誰も父に
逆らえない

お姉様も
お母様も

だから
私は本心を
偽ってきた

だから私は
自制心が
強くなったんだ

カチッ
いや
それは関係ないかな
スッキリした…
……
駆け落ちしようか…
それは
ダメだ
私の自制心が邪魔をする
お父様だけじゃなくお姉様やお母様までも裏切ることになってしまう

お父様とした約束は絶対だ
私はあのおっさんと結婚させられる
……
はぁ…
帰ろう
あんまり遅れてあっちゃんにいじけてると思われるのもむかつく
ちゃんと…
なにも無かったように振る舞えるかな…

昴！
心配したよ…
こんな
遅くまで…
やっぱり
あっちゃん
心配してた…

今まで
こんなに遅く
帰ってくる
ことなんて
なかった
じゃないか
あっちゃんー…
しゃぶりたいなー
今 私の半径
1メートルに
チ〇チ〇が
あるのに…

そりゃ……
もう勉強
しなくて
いいからね
息をすれば
きっと…
あっちゃんの
チ〇チ〇に
触れた空気が
私の肺胞に…
そして血液に
取り込まれ
私の全身に…
うわ！
どうしよう！
そんなこと
考えたら
濡れて
きちゃった…！
……

昴…
なんで
あんたが
そんな残念
そうな
顔するの？
匂いで
ばれちゃう!!
静まれ私の
バルトリン腺液!!

フェラチオオナニー
したい……
精子飲みたい!!
精子!!
私は自分が
好きな相手と
結婚する権利を
得るために勉強を
がんばっていた
とは言ったけど…
別にあんたと
結婚するなんて
一言も
言ってないから

……
私は いつも
素直になれない

本性を
知られるのが
怖いから
君は
知らないと
思うけど…
ぼくは…

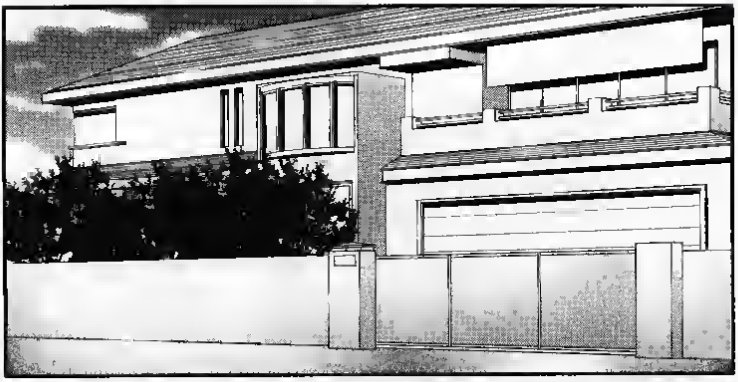
君と
会うために
今まで
がんばって
きたんだ
……
授業料の高い
この学校の
特待生に
選ばれるように
がんばったのも
全て昴に会うためだ
絶対に
ここで
終わらせない
……

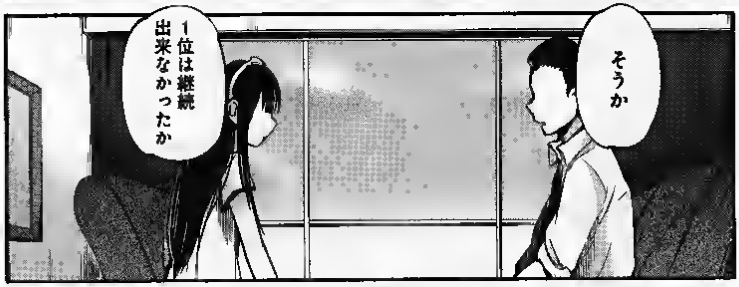
ぼくは
ぼくに出来る
ことなら
何でもする
……

あっちゃん…
こいつ
こんなに
男らしかっ
たっけ…
ううっ…
排卵しそう…
あっちゃんの
子供を
受精したい
……

明日は
土曜日…

お父様に
会おう




そうか
1位は継続
出来なかったか

……
もう一度
チャンスを
ください
ダメだ
既に
チャンスは
与えた
条件を果たせ
なかった以上
私の言うことに
従ってもらう

田島へ
嫁に行け
これは私の
わがまま
ではない
お前に
ふさわしい男と
結婚するのが
お前の幸せ
だからだ
何不自由なく
暮らすことが
出来る
でも私は
自分の…
ならん
どうしても
自分で相手を
決めたいのなら
1度死んで別の家に
生まれ変わってから
好きにすればいい
この川奈家の娘
として生まれた以上
川奈家の娘として
責務を果たしてもらう
……
ダメだ…
取り付く
島がない

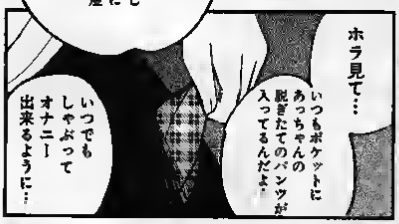
来週また田島と食事会を開く
その時に縁談を受けると返事をするんだ
いいな？
言えない
私は好きな人と結婚したいのに…
……絶対にイヤなのに…
冗談じゃない こんな…に…
やばい…
!?
ドキドキ…
自制心を…失ってしまう…!!
ガクッ
……
どうした昴？
絶対に…

絶対にイヤ
……
なんだと？
絶対にイヤ
あんな人と結婚しない
昴…
お前は何を言っている
私の言うことに従えないのか？
当たり前でしょう？
好きでもない人と何十年も一緒に暮らせというの？
それがお前のためだ
別に私は楽な生活をするために生まれてきたわけじゃない
昴お前…
私は…

あっちゃんと結婚したいの…
……
あっちゃん？
そう
小さい頃からずっと…好きだったの
やっと一緒になれたのに…
やだよ…
もう離れたくない…
私を裏切らねばならないほどそいつが好きだと言うのか？
うん
……

あっちゃんのことを考えて毎日オナニーばかりしているの…

……
は？
平均して1日5回
悶々としてるときは10回くらいするしインフルエンザにかかって熱が40度出たときでも3回した


ホラ見て…
いつもポケットにあっちゃんの脱ぎたてのパンツが入ってるんだよ
いつでもしゃぶってオナニー出来るように…

あっちゃんのことを考えて
あっちゃんのパンツを吸いながら毎日オナニーしてるの…

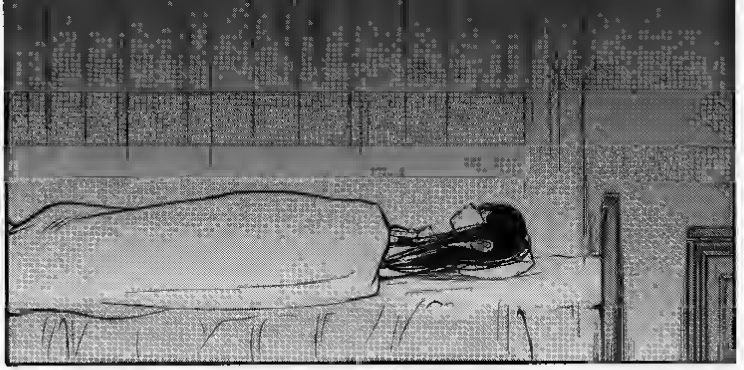
いつもは…
あっちゃんのことを考えただけでパンツがグショグショなのに…

でも
ダメなの…
水分が涙に
全部変わって…
全然
濡れない…

悲しくて…
泣いて
ばかりで…
オナニー
出来ないの…

うぅ…
うっ…
うぅ…
うっ…

す！…
す！…
私も若い女の心の動きになど関心はなくなったが…
それでも年頃の娘が
父親に自慰のネタを明かすという事態がただ事ではないことは理解出来る
あのマジメな弟がこんなになってしまうほど…
私は追い詰めていたのか…



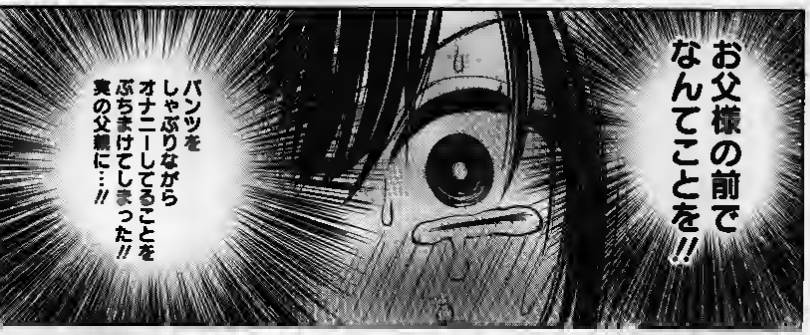
がばっ

ん…

あっ……

……

あああああ
あああああ!!!
うあああああ
あああああ!!


お父様の前で
なんてことを!!
パンツを
しゃぶりながら
オナニーしてることを
ぶちまけてしまった!!
真の父親に…!!

死のう!!
ガラッ
死ぬしか
ない!!
昴?
えっ?

あっちゃん…
どうして
ここに…
君のお父さんに
直談判で
頼みに来たんだ

ぼくと昴を
結婚させて
ください って

……
怒られた
でしょ？
別に

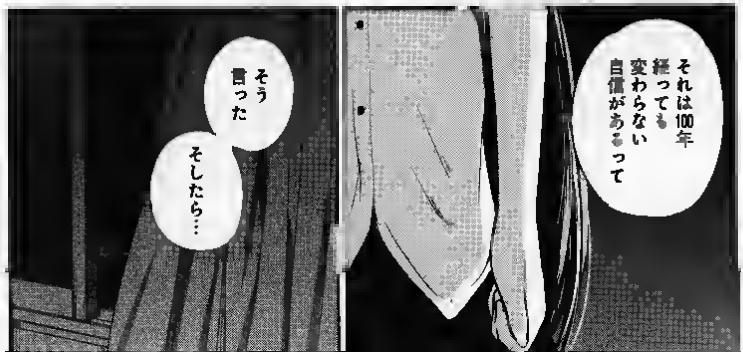
全然
怒られて
ないよ
!?
嘘つけ
!!

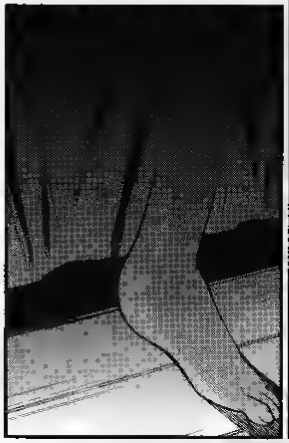
……
それで…?
普通に
まだ早いって
言われた
高一で
結婚もなにも
ないだろうって

高校生の
恋愛なんて
後から
振り返れば
ママゴトで…
結婚する
年齢に
なったとき
お互いの気持ちが
今のままである
保証なんか
なにもないってさ
でも…
ぼくは
高一だけど…

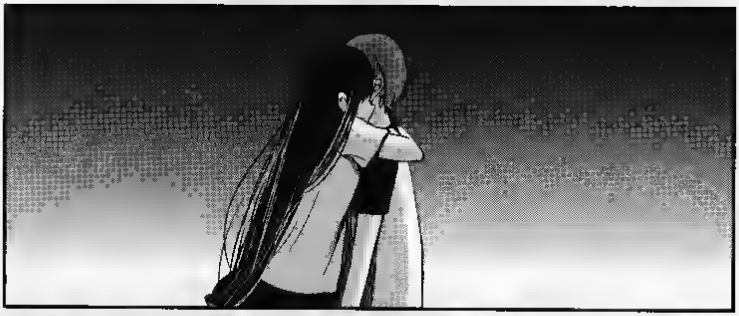
もう昴を
好きに
なってから
10年経つ
初めて昴と
会った頃
から…

昴だけが
好きなんだ


それは100年
経っても
変わらない
自信があるって
そう
言った
そしたら…



10年後も
気が変わら
なかったら
好きにすれば
いいってさ

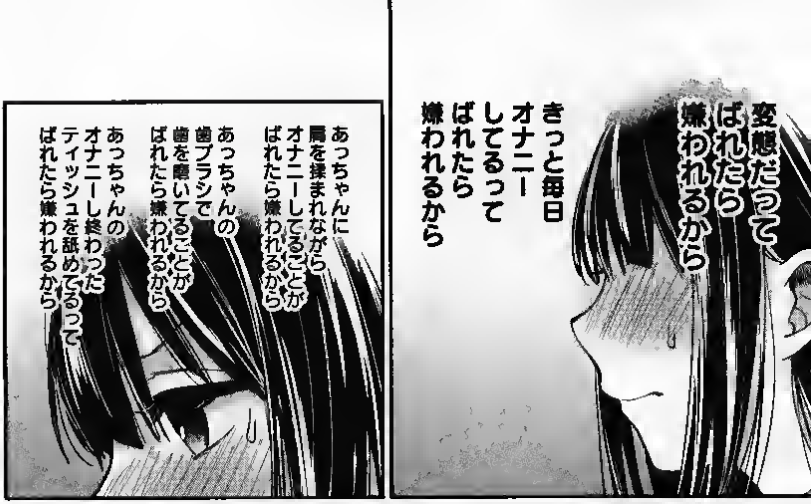


……
うん
帰ろう

Hしたい
Hしたい
Hしたい
Hしたい
Hしたい

でもダメだ
でもダメだ
でもダメだ
でもダメだ

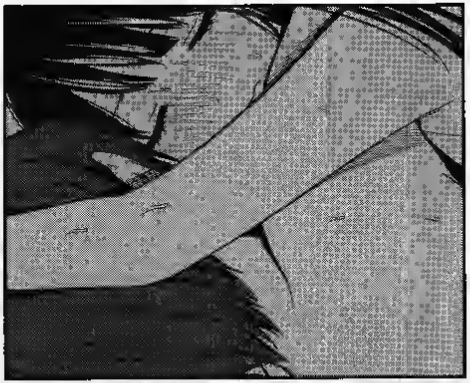
……
……
……
!?
ツツ…
いや!!
ドンッ
……
どうして？
どうして…って…
嫌われるから

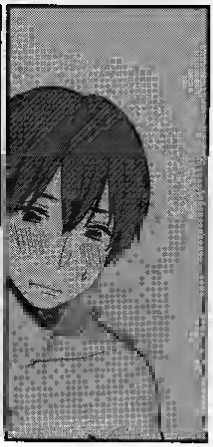

変態だって
ばれたら
嫌われるから
きっと毎日
オナニー
してるって
ばれたら
嫌われるから
あっちゃんに
肩を揉まれながら
オナニーしてることが
ばれたら嫌われるから
あっちゃんの
歯ブラシで
歯を磨いてることが
ばれたら嫌われるから
あっちゃんの
オナニー終わった
ティッシュを舐めてるって
ばれたら嫌われるから

はぁ!?
ちなみに
昴が変態なのは
もうとっくに
知ってるからさ
ぼくに肩
揉まれながら
オナニーしてる
ことも知ってるし
たまに
ぼくの歯ブラシで
歯を磨いてるのも
歯磨き粉は
昴が自分のを
使ってるから
匂いでわかったし
ゴミ箱から
ティッシュが
なくなってるのも
知ってるし…
わ――!!
わ――!!
わ――!!

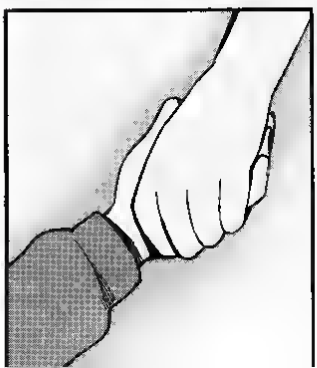
もう
死ぬ!!
止め
ないで!!

昴が変態なことも
全て含めて
昴のことが
好きなんだ
……
ホントに
……？
ああ
あっ…

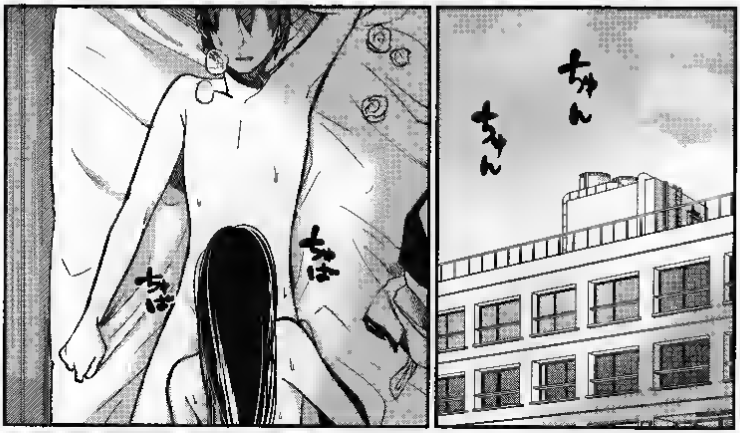




あの日
初めて出会った
ぼくと昴は



この日
初めてひとつに
繋がった



ぼくが
考えていた以上に…

昴との
付き合いは
大変かもしれない

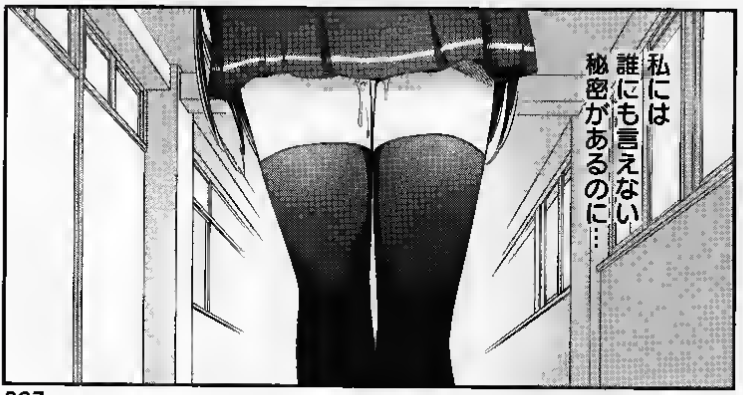
君は淫らな僕の女王

君は淫らな僕の女王

番外編

1日に1時間
私は
完全に自制心を
なくしてしまう

理性がなくなって
動物のように
本能だけで
行動してしまう



やっぱ
川奈さん
かわいいなぁ…

明らかに
クラスで一番
かわいい子って
いうレベル
じゃないよな
学校に1人も
いないレベルの
かわいい子が
たまたま同じ
クラスにいるって
感じで…
一体どんな男なら
川奈さんと
付き合えるん
だろうな
……

はい席に
ついてー
ガラ…
今日は
いいお知らせが
あります

小論文コンクールで川奈さんが環境大臣賞を受賞しました
来月に文部科学省で表彰式があります
パチ
パチ
おお…
あんなにかわいいのに…
パチ
パチ
頭までいいんだもんな…
ホント欠点がなくて怖い
性格もおしとやかだし…
完璧すぎて微塵の猥褻さも感じさせない…
……
微塵のワイセツさねぇ…
あの…先生すみません…
ちょっと具合が悪いので保健室に行っていいですか？
ああいいわよ大丈夫？
ポタ…
ポタ…

ガッシュ

んっ…
あっ…!!
私は優等生のフリをしているだけだだれも私の本当の姿を知らない
ああぁ…!あっちゃんの歯ブラシ…!
私は毎日学校でもオナニーをしている
私今あっちゃんとペロチューしてる…!!
起きてる間は3時間に1回はしないと生活出来ない

あっ…
イキそうっ…
イキそうっ…
でないと股間から出たヌルヌルしたものが足首に到達してしまうほど性欲がたまっているから

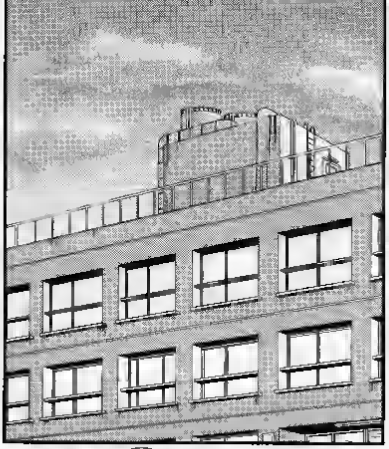
ふあ!!
びくっ
びくん

ああぁあ
あぁぁあっ!!
ビクッ
ジョバババババ
……
すっきりした…
でも普段いじるのはクリトリスばっかり
中に入れたらもっと気持ちいいのかな
あっちゃんの…入れて欲しいな…
はっくしょん!!
昴…
体の具合は大丈夫かな…

うつ…

あっちゃんのこと
考えたら
またオナニーしたく
なってきた…

あっちゃんの
男子寮の部屋と
私の女子寮の部屋は
繋がっている
だから私とあっちゃんは
同じ部屋に住んでいる



私の自制心と
引き替えに
真の神様と
取引をしたから
……
あっちゃんは
まだ帰ってきて
ないのか…

ラッキー!!

まさか
あっちゃんも…
同じ色の歯ブラシが
2本あって
毎日取り替えられてる
とは思うまい
カラン…
さて次はと……

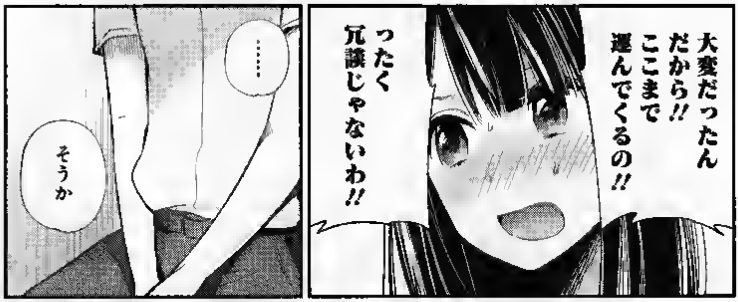
ガサゴソ
ちっ…
やっぱりない…
ザーメンティッシュ…
オナニーしてないのかな…
それともまさか…
ティッシュ漁りしてるのがばれて……
警戒されてトイレに流されてるとか…
そ…そんなことないよね…
あっちゃん鈍感だし…
あ～～～ん!!どうしよう!!
精子の匂いを嗅がないと精神の安定が保てないのに!!
ジタバタ
……
しゃーない…

パンツでもしゃぶるか
カキャ
あっちゃんのパンツ…
生き物の匂いがする…
スーハー
カツカツ
あっちゃんのパンツおいしいよぉ…
ジュバッ
ジュバッ
う…
さっきも帰り道でオナニーしたばかりなのに…
おいしい…
おいしいよ…

ただいまー
バタン…
!?
ガバッ
ガバッ
ゴッ
……
危なかった…

スー…
スー…
なかなか目を覚まさないな…
やりすぎちゃった…
スー…
スー…
息はしてるから…
大丈夫だと思うけど…
……
どうしよう…
このまま死んじゃったら…
今のうちにしゃぶっとこうかなー…
そうよ…
別にザーメンティッシュなんてあさんなくても直で新鮮な精子吸い出せばいいんだ…
カチャ
カチャ

痛って…
ムク…
びくっ
…あれ？
なんでぼくベッドに寝てるんだ？
えと…!!
その…!!
突然玄関で倒れたの!!


大変だったんだから!!
ここまで運んでくるの!!
ったく
冗談じゃないわ!!
……
そうか

ありがとう
あっちゃん…

パンツを吸った
証拠隠滅に
全力であそこに
ソバットを入れた
私が
お礼を言われる
なんて…
心が痛い…

……
あんた
臭いわよ
えっ？

……

珍しいな
昴が…

お風呂の用意
してあげるわ
は？

チャプ…
ふぅ〜…
反省しよう
カリカリ…
もうあっちゃんに迷惑はかけられない
辛くても…性欲を抑える努力をしよう
少なくとも変態行為は控えなくちゃ…
キティティ
!?
ビクン
まずい!!
自制心を失う!!
ふぅ〜…
初めてだな
昴がぼくのために何かをしてくれたのって…
カチャ

あっちゃん
私も一緒に
入る…
わ――!!
無理無理
無理!!
ユニットバス
なんだから!!
ガチャ…
バン!

ねぇ
あっちゃん…
Hするのは
ダメ
なんでしょ?
えっ?
あ
ああ…

だったらアナルセックスで我慢する
はあ!?
お尻ならHしたことにならないでしょ？
それこそ絶対無理だ!!
普通のHもしたことないのに…
はぁ
はぁ
はぁ
だってどこでもいいからあっちゃんの精子吸収しないと…
私おかしくなっちゃいそうなの…
はぁ
だからお願い…
ひちひちの精子をたくさん注いで♡
うわ――!!

君は淫らな僕の女王

「君は淫らな僕の女王」

いかがでしたか？

作画担当の横槍メンゴです。

毎話ごとに送られてくる、岡本先生のカゲキなネームを、「ふぇぇ…こ、こんなえっちなの、描けないよぉ…///」と赤面しながら描かせていただきました横槍メンゴです。昴ちゃんは毎回大量に汁を放出していたので、脱水症状にならないのか…と心配していました横槍メンゴです。

「萌えっとくるコメント、たのむよ!!」と言われてこれを描いていますが、色々と限界です。岡本先生と組めて超たのしかったです!!

横槍メンゴ

おとがき

最初は一本だけの
読みきりのはずでした。
でもひょっとしたら人気が出て
連載になって、コミックスが
出るようなことになるかも
しれない、その時に困らなり
ようにと慎重に欲を出して
読みきりではなく「一話目」として
最初のネームを書きました。

そして横搭メンゴ先生のかわいい絵を
手に入れたおかげで、目論見通り
人気が出て、連載になって、こうして
コミックスとして世に出ることが出来ました。

これもこの漫画を好きになってくれた
皆さんのおかげです。
本当にありがとうございました。

岡本倫